

JS03-PDF-001

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：鎖骨骨折・鎖骨骨折の好発部位を理解する】「鎖骨体部の中央1/3付近」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 外側端骨折もあるが中1/3より少ない。

イ. 内側端骨折は比較的少ない。

ウ. 鎖骨骨折は中1/3付近に最も多い。

エ. 関節面だけが好発部位ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩峰端」に関する内容で、今回の「鎖骨体部の中央1/3付近」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「胸骨端」に関する内容で、今回の「鎖骨体部の中央1/3付近」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「鎖骨体部の中央1/3付近」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩鎖関節面のみ」に関する内容で、今回の「鎖骨体部の中央1/3付近」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「鎖骨体部の中央1/3付近」が適切である。根拠は、鎖骨骨折は中1/3付近に最も多い。

JS03-PDF-002

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：鎖骨骨折・受傷機転を理解する】実習生が「頸部回旋だけで必ず生じる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 鎖骨骨折の典型機序ではない。

イ. 単純な頸部回旋は典型機序ではない。

ウ. 肩への直達・介達外力で鎖骨に曲げ・圧縮力が加わり得る。

エ. 肩帯へ外力が伝わらない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「手指屈曲だけで生じる」に関する内容で、今回の誤判断「頸部回旋だけで必ず生じる」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「頸部回旋だけで必ず生じる」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肩部に加わった外力が鎖骨へ伝わる」に関する内容で、今回の誤判断「頸部回旋だけで必ず生じる」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節内反だけで生じる」に関する内容で、今回の誤判断「頸部回旋だけで必ず生じる」の理由ではない。

総合解説：「頸部回旋だけで必ず生じる」は不適切である。理由は、単純な頸部回旋は典型機序ではない。この論点での適切な判断は「肩部に加わった外力が鎖骨へ伝わる」である。

JS03-PDF-003

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：鎖骨骨折・骨片転位機序を理解する】「胸鎖乳突筋」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 前腕・手の筋である。
- イ. 鎖骨内側部に付着する胸鎖乳突筋が近位骨片を上方へ牽引する。
- ウ. 前腕筋である。
- エ. 鎖骨近位骨片の主要転位因子ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「長母指伸筋」に関する内容で、今回の「胸鎖乳突筋」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「胸鎖乳突筋」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「円回内筋」に関する内容で、今回の「胸鎖乳突筋」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「上腕三頭筋」に関する内容で、今回の「胸鎖乳突筋」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「胸鎖乳突筋」が適切である。根拠は、鎖骨内側部に付着する胸鎖乳突筋が近位骨片を上方へ牽引する。

JS03-PDF-004

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：鎖骨骨折・典型姿勢を理解する】実習生が「肩を最大外転位に保つため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 患者は疼痛を避ける姿勢をとる。
- イ. 患肢支持は肩帯への牽引を減らし疼痛を軽減する。
- ウ. 神経圧迫は目的ではない。
- エ. 典型的な疼痛回避姿勢ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「骨折部をさらに転位させるため」に関する内容で、今回の誤判断「肩を最大外転位に保つため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「上肢重量による骨折部への牽引と疼痛を軽減するため」に関する内容で、今回の誤判断「肩を最大外転位に保つため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢神経を圧迫するため」に関する内容で、今回の誤判断「肩を最大外転位に保つため」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「肩を最大外転位に保つため」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「肩を最大外転位に保つため」は不適切である。理由は、典型的な疼痛回避姿勢ではない。この論点での適切な判断は「上肢重量による骨折部への牽引と疼痛を軽減するため」である。

JS03-PDF-005

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：鎖骨骨折・安全な診察を理解する】「肩の左右差、局所変形、皮膚緊張、骨性圧痛を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。
ア. 骨片による皮膚危機を見逃す。
イ. 二次損傷を起こす危険がある。
ウ. 視診・触診で変形、皮膚状態、圧痛を安全に評価する。
エ. 左右比較は変形評価に有用である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「皮膚状態を確認しない」に関する内容で、今回の「肩の左右差、局所変形、皮膚緊張、骨性圧痛を確認する」の根拠ではない。
イ：誤り。この説明は「異常可動性を出すため強く反復して動かす」に関する内容で、今回の「肩の左右差、局所変形、皮膚緊張、骨性圧痛を確認する」の根拠ではない。
ウ：正しい。この説明が「肩の左右差、局所変形、皮膚緊張、骨性圧痛を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。
エ：誤り。この説明は「健側との比較を行わない」に関する内容で、今回の「肩の左右差、局所変形、皮膚緊張、骨性圧痛を確認する」の根拠ではない。
総合解説：この論点では「肩の左右差、局所変形、皮膚緊張、骨性圧痛を確認する」が適切である。根拠は、視診・触診で変形、皮膚状態、圧痛を安全に評価する。

JS03-PDF-006

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：鎖骨骨折・鎖骨周囲の神経血管解剖を理解する】実習生が「大腿動脈損傷」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。
ア. 下肢神経である。
イ. 下肢の神経である。
ウ. 鎖骨深部には腕神経叢と鎖骨下血管が走行する。
エ. 大腿部の血管である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「脛骨神経損傷」に関する内容で、今回の誤判断「大腿動脈損傷」の理由ではない。
イ：誤り。この説明は「坐骨神経損傷」に関する内容で、今回の誤判断「大腿動脈損傷」の理由ではない。
ウ：誤り。この説明は「腕神経叢・鎖骨下血管損傷」に関する内容で、今回の誤判断「大腿動脈損傷」の理由ではない。
エ：正しい。この説明が「大腿動脈損傷」が不適切である理由に直接対応する。
総合解説：「大腿動脈損傷」は不適切である。理由は、大腿部の血管である。この論点での適切な判断は「腕神経叢・鎖骨下血管損傷」である。

JS03-PDF-007

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：鎖骨骨折・胸郭合併症を理解する】「胸膜・肺損傷による気胸」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 転位骨片などで胸膜や肺を損傷することがある。

イ. 膝の損傷である。

ウ. 下肢の損傷である。

エ. 呼吸困難を説明しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「胸膜・肺損傷による気胸」を適切とする根拠に直接対応する。
イ：誤り。この説明は「半月板損傷」に関する内容で、今回の「胸膜・肺損傷による気胸」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「アキレス腱断裂」に関する内容で、今回の「胸膜・肺損傷による気胸」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手根管症候群」に関する内容で、今回の「胸膜・肺損傷による気胸」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「胸膜・肺損傷による気胸」が適切である。根拠は、転位骨片などで胸膜や肺を損傷することがある。

JS03-PDF-008

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：鎖骨骨折・固定目的を理解する】実習生が「固定後の手指循環を確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 疼痛軽減と二次損傷予防が固定の主目的である。

イ. 循環障害を生じる。

ウ. 末梢循環評価が必要である。

エ. 皮膚損傷を招く。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「患肢を支持し骨折部の不要な動きを抑える」に関する内容で、今回の誤判断「固定後の手指循環を確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「脈拍が消えるまで強く締める」に関する内容で、今回の誤判断「固定後の手指循環を確認しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「固定後の手指循環を確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨片を強く皮膚へ押しつける」に関する内容で、今回の誤判断「固定後の手指循環を確認しない」の理由ではない。

総合解説：「固定後の手指循環を確認しない」は不適切である。理由は、末梢循環評価が必要である。この論点での適切な判断は「患肢を支持し骨折部の不要な動きを抑える」である。

JS03-PDF-009

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：鎖骨骨折・神経血管評価を理解する】「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上肢神経血管評価にならない。
- イ. 患側上肢を評価すべきである。
- ウ. 神経血管合併症と固定による変化を評価する。
- エ. 鎖骨骨折の合併症評価と無関係である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「視力だけ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足趾筋力だけ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「腹囲だけ」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動」が適切である。根拠は、神経血管合併症と固定による変化を評価する。

JS03-PDF-010

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：鎖骨骨折・治癒後変形を理解する】実習生が「必ず上腕骨頭壊死」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 鎖骨骨折治癒後に必発ではない。
- イ. 鎖骨骨折の典型的後遺症ではない。
- ウ. 一般的後遺症ではない。
- エ. 転位例では骨性隆起や短縮変形が残ることがある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「必ず肩関節完全脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「必ず上腕骨頭壊死」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「必ず上腕骨頭壊死」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「必ず手指壊死」に関する内容で、今回の誤判断「必ず上腕骨頭壊死」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「骨折部の隆起や短縮」に関する内容で、今回の誤判断「必ず上腕骨頭壊死」の理由ではない。

総合解説：「必ず上腕骨頭壊死」は不適切である。理由は、鎖骨骨折の典型的後遺症ではない。この論点での適切な判断は「骨折部の隆起や短縮」である。

JS03-PDF-011

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：鎖骨骨折・皮膚危機を判断する】「皮膚壊死・開放化の危険を考え速やかに医療評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 皮膚危機は疼痛だけで判断しない。
- イ. 開放化や組織損傷を招く。
- ウ. 神経血管評価も必要である。
- エ. 強い皮膚緊張は皮膚危機の所見である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「痛みが少なければ放置する」に関する内容で、今回の「皮膚壊死・開放化の危険を考え速やかに医療評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「皮膚が破れるまで骨片を強く押す」に関する内容で、今回の「皮膚壊死・開放化の危険を考え速やかに医療評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢循環を確認しない」に関する内容で、今回の「皮膚壊死・開放化の危険を考え速やかに医療評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「皮膚壊死・開放化の危険を考え速やかに医療評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「皮膚壊死・開放化の危険を考え速やかに医療評価する」が適切である。根拠は、強い皮膚緊張は皮膚危機の所見である。

JS03-PDF-012

3-1 肩 > 鎖骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：鎖骨骨折・小児骨折の評価を理解する】実習生が「成人と同じ強さで患部を反復操作する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 小児骨折は変形が目立たないことがある。
- イ. 骨折の手掛かりになり得る。
- ウ. 成長軟骨を含み慎重な評価が必要である。
- エ. 乳幼児は症状を十分に言語化できないため行動所見が重要である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「変形がなければ骨折を否定する」に関する内容で、今回の誤判断「成人と同じ強さで患部を反復操作する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「患部を使わなくても正常と決める」に関する内容で、今回の誤判断「成人と同じ強さで患部を反復操作する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「成人と同じ強さで患部を反復操作する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「患部を使わない、触ると泣くなどの行動変化も重視する」に関する内容で、今回の誤判断「成人と同じ強さで患部を反復操作する」の理由ではない。

総合解説：「成人と同じ強さで患部を反復操作する」は不適切である。理由は、成長軟骨を含み慎重な評価が必要である。この論点での適切な判断は「患部を使わない、触ると泣くなどの行動変化も重視する」である。

JS03-PDF-013

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肩関節脱臼・好発方向を理解する】「前方」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 後方脱臼は前方より少ない。
- イ. 肩脱臼の代表的方向分類ではない。
- ウ. まれである。
- エ. 肩関節脱臼は前方脱臼が最も多い。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「後方」に関する内容で、今回の「前方」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「中心性」に関する内容で、今回の「前方」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「上方」に関する内容で、今回の「前方」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「前方」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「前方」が適切である。根拠は、肩関節脱臼は前方脱臼が最も多い。

JS03-PDF-014

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肩関節脱臼・前方脱臼の受傷肢位を理解する】実習生が「肘屈曲位だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩の外転外旋が重要である。
- イ. 外転外旋位への強い外力で前方脱臼を生じやすい。
- ウ. 肩脱臼機序ではない。
- エ. 下肢の肢位である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「肘屈曲位だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「外転・外旋位」に関する内容で、今回の誤判断「肘屈曲位だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「手関節背屈位だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肘屈曲位だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節内反位」に関する内容で、今回の誤判断「肘屈曲位だけ」の理由ではない。

総合解説：「肘屈曲位だけ」は不適切である。理由は、肩の外転外旋が重要である。この論点での適切な判断は「外転・外旋位」である。

JS03-PDF-015

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肩関節脱臼・前方脱臼の変形を理解する】「肩峰が目立ち肩の丸みが失われる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩脱臼所見ではない。
- イ. 前方脱臼では典型的変形を認める。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 骨頭が関節窩から外れると三角筋部の丸みが消失する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「足関節が内反する」に関する内容で、今回の「肩峰が目立ち肩の丸みが失われる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩輪郭は必ず完全正常」に関する内容で、今回の「肩峰が目立ち肩の丸みが失われる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝だけが腫れる」に関する内容で、今回の「肩峰が目立ち肩の丸みが失われる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「肩峰が目立ち肩の丸みが失われる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「肩峰が目立ち肩の丸みが失われる」が適切である。根拠は、骨頭が関節窩から外れると三角筋部の丸みが消失する。

JS03-PDF-016

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肩関節脱臼・合併神経損傷を理解する】実習生が「総腓骨神経」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩関節周囲を走行し脱臼で牽引・圧迫されやすい。
- イ. 下肢神経である これは「脛骨神経」に関する説明である。
- ウ. 下肢神経である これは「大腿神経」に関する説明である。
- エ. 下肢神経である これは「総腓骨神経」に関する説明である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「腋窩神経」に関する内容で、今回の誤判断「総腓骨神経」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「脛骨神経」に関する内容で、今回の誤判断「総腓骨神経」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「大腿神経」に関する内容で、今回の誤判断「総腓骨神経」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「総腓骨神経」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「総腓骨神経」は不適切である。理由は、下肢神経である これは「総腓骨神経」に関する説明である。この論点での適切な判断は「腋窩神経」である。

JS03-PDF-017

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肩関節脱臼・感覚領域から神経障害を判断する】「腋窩神経障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腋窩神経の知覚領域に一致する。
- イ. 小指側感覚が中心である。
- ウ. 手掌橈側感覚などが中心である。
- エ. 下肢神経である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「腋窩神経障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「尺骨神経障害」に関する内容で、今回の「腋窩神経障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「正中神経障害」に関する内容で、今回の「腋窩神経障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「総腓骨神経障害」に関する内容で、今回の「腋窩神経障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腋窩神経障害」が適切である。根拠は、腋窩神経の知覚領域に一致する。

JS03-PDF-018

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肩関節脱臼・整復前後評価を理解する】実習生が「足趾感覚だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所安全評価にならない。
- イ. 肩脱臼合併症評価と無関係である。
- ウ. 脱臼自体や整復操作による神経血管変化を比較する。
- エ. 患側上肢を評価すべきである。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「体脂肪率だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾感覚だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「視力だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足趾感覚だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢神経・血管機能と整復状態の確認」に関する内容で、今回の誤判断「足趾感覚だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「足趾感覚だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「足趾感覚だけ」は不適切である。理由は、患側上肢を評価すべきである。

この論点での適切な判断は「末梢神経・血管機能と整復状態の確認」である。

JS03-PDF-019

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肩関節脱臼・反復性脱臼を理解する】「初回脱臼後に軽い外力でも再脱臼を繰り返すことがある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折なしで再脱臼すること多い。
- イ. 再発は重要な問題である。
- ウ. 特定肢位で不安感を訴えることがある。
- エ. 外傷性脱臼後の不安定性により再発することがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「再発時は必ず骨折を伴う」に関する内容で、今回の「初回脱臼後に軽い外力でも再脱臼を繰り返すことがある」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「一度脱臼すれば再発しない」に関する内容で、今回の「初回脱臼後に軽い外力でも再脱臼を繰り返すことがある」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「不安定感は生じない」に関する内容で、今回の「初回脱臼後に軽い外力でも再脱臼を繰り返すことがある」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「初回脱臼後に軽い外力でも再脱臼を繰り返すことがある」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「初回脱臼後に軽い外力でも再脱臼を繰り返すことがある」が適切である。根拠は、外傷性脱臼後の不安定性により再発することがある。

JS03-PDF-020

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肩関節脱臼・Bankart損傷を理解する】実習生が「尺骨茎状突起骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下肢損傷である。
- イ. 膝関節損傷である。
- ウ. 外傷性前方脱臼に伴う前下方関節唇損傷である。
- エ. 前腕遠位部の骨折である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「アキレス腱断裂」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨茎状突起骨折」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「膝半月板損傷」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨茎状突起骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節前下方の関節唇損傷」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨茎状突起骨折」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「尺骨茎状突起骨折」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「尺骨茎状突起骨折」は不適切である。理由は、前腕遠位部の骨折である。この論点での適切な判断は「肩関節前下方の関節唇損傷」である。

JS03-PDF-021

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肩関節脱臼・Hill-Sachs損傷を理解する】「上腕骨頭後外側の圧痕性骨損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. Hill-Sachs損傷ではない。
- ウ. 前方脱臼時に骨頭後外側が関節窩縁へ衝突して生じる。
- エ. 骨頭圧痕とは異なる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「尺骨近位端骨折」に関する内容で、今回の「上腕骨頭後外側の圧痕性骨損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「鎖骨近位端疲労骨折」に関する内容で、今回の「上腕骨頭後外側の圧痕性骨損傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「上腕骨頭後外側の圧痕性骨損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩峰端骨折」に関する内容で、今回の「上腕骨頭後外側の圧痕性骨損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「上腕骨頭後外側の圧痕性骨損傷」が適切である。根拠は、前方脱臼時に骨頭後外側が関節窩縁へ衝突して生じる。

JS03-PDF-022

3-1 肩 > 肩関節脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肩関節脱臼・安全な初期対応を理解する】実習生が「必要に応じ画像評価する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 不用意な反復整復は骨折・神経血管損傷を悪化させる。
- イ. ではない。骨折合併や脱臼方向確認に有用である。
- ウ. ではない。整復前後に必要である。
- エ. ではない。脱臼方向や合併損傷推定に重要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨折合併を評価せず強い整復操作を反復する」に関する内容で、今回の誤判断「必要に応じ画像評価する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「必要に応じ画像評価する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「末梢神経血管を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「必要に応じ画像評価する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「受傷機転を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「必要に応じ画像評価する」の理由ではない。

総合解説：「必要に応じ画像評価する」は不適切である。理由は、ではない。骨折合併や脱臼方向確認に有用である。この論点での適切な判断は「骨折合併を評価せず強い整復操作を反復する」である。

JS03-PDF-023

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱板損傷・腱板構成筋を理解する】「三角筋」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腱板構成筋である これは「肩甲下筋」に関する説明である。
- イ. 腱板は棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋で構成される。
- ウ. 腱板構成筋である これは「棘下筋」に関する説明である。
- エ. 腱板構成筋である これは「棘上筋」に関する説明である。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。この説明は「肩甲下筋」に関する内容で、今回の「三角筋」の根拠ではない。
 - イ：正しい。この説明が「三角筋」を適切とする根拠に直接対応する。
 - ウ：誤り。この説明は「棘下筋」に関する内容で、今回の「三角筋」の根拠ではない。
 - エ：誤り。この説明は「棘上筋」に関する内容で、今回の「三角筋」の根拠ではない。
- 総合解説：この論点では「三角筋」が適切である。根拠は、腱板は棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋で構成される。

JS03-PDF-024

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱板損傷・腱板断裂の好発部位を理解する】実習生が「上腕三頭筋腱だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手指筋腱である。
- イ. 腱板を構成しない。
- ウ. 前腕筋である。
- エ. 腱板断裂では棘上筋腱が代表的に損傷される。

答え・4肢解説

正答：イ

- ア：誤り。この説明は「長母指屈筋腱」に関する内容で、今回の誤判断「上腕三頭筋腱だけ」の理由ではない。
 - イ：正しい。この説明が「上腕三頭筋腱だけ」が不適切である理由に直接対応する。
 - ウ：誤り。この説明は「円回内筋腱」に関する内容で、今回の誤判断「上腕三頭筋腱だけ」の理由ではない。
 - エ：誤り。この説明は「棘上筋腱」に関する内容で、今回の誤判断「上腕三頭筋腱だけ」の理由ではない。
- 総合解説：「上腕三頭筋腱だけ」は不適切である。理由は、腱板を構成しない。この論点での適切な判断は「棘上筋腱」である。

JS03-PDF-025

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱板損傷・自動・他動運動から腱板機能を判断する】「自動挙上の筋力低下が目立つ一方、他動可動域は比較的保たれることがある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腱板機能低下では自動運動が障害され、拘縮が強くなければ他動域は保たれ得る。
- イ. 下肢機能である。
- ウ. 肩腱板機能を示さない。
- エ. 完全拘縮とは限らない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「自動挙上の筋力低下が目立つ一方、他動可動域は比較的保たれることがある」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「足関節背屈だけが低下する」に関する内容で、今回の「自動挙上の筋力低下が目立つ一方、他動可動域は比較的保たれることがある」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手関節尺屈だけが障害される」に関する内容で、今回の「自動挙上の筋力低下が目立つ一方、他動可動域は比較的保たれることがある」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「自動・他動とも必ず完全に消失する」に関する内容で、今回の「自動挙上の筋力低下が目立つ一方、他動可動域は比較的保たれることがある」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「自動挙上の筋力低下が目立つ一方、他動可動域は比較的保たれることがある」が適切である。根拠は、腱板機能低下では自動運動が障害され、拘縮が強くなければ他動域は保たれ得る。

JS03-PDF-026

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱板損傷・腱板断裂の診察所見を理解する】実習生が「アキレス腱反射消失だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩腱板断裂の局所所見ではない。
- イ. 下肢循環所見である。
- ウ. 膝関節所見である。
- エ. これらは腱板断裂を疑う診察所見である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「アキレス腱反射消失だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「足背動脈消失」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱反射消失だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝蓋跳動」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱反射消失だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩挙上時の軋轢音や棘下筋萎縮」に関する内容で、今回の誤判断「アキレス腱反射消失だけ」の理由ではない。

総合解説：「アキレス腱反射消失だけ」は不適切である。理由は、肩腱板断裂の局所所見ではない。この論点での適切な判断は「肩挙上時の軋轢音や棘下筋萎縮」である。

JS03-PDF-027

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱板損傷・腱板損傷の画像評価を理解する】「MRI・超音波検査」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩局所の評価ではない。
- イ. 腱板断裂そのものを直接評価しにくい。
- ウ. 腱板など軟部組織の断裂評価に有用である。
- エ. 肩腱板評価にならない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腹部超音波だけ」に関する内容で、今回の「MRI・超音波検査」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「胸部X線だけ」に関する内容で、今回の「MRI・超音波検査」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「MRI・超音波検査」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「頭部CTだけ」に関する内容で、今回の「MRI・超音波検査」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「MRI・超音波検査」が適切である。根拠は、腱板など軟部組織の断裂評価に有用である。

JS03-PDF-028

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱板損傷・症例から腱板断裂を疑う】実習生が「腓骨骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 自動拳上障害と他動域の比較的保持は腱板機能障害を示唆する。
- イ. 下腿骨折である。
- ウ. 下肢損傷である。
- エ. 膝損傷である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「腱板断裂」に関する内容で、今回の誤判断「腓骨骨折」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「腓骨骨折」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「足関節外側靱帯損傷」に関する内容で、今回の誤判断「腓骨骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「膝前十字靱帯損傷」に関する内容で、今回の誤判断「腓骨骨折」の理由ではない。

総合解説：「腓骨骨折」は不適切である。理由は、下腿骨折である。この論点での適切な判断は「腱板断裂」である。

JS03-PDF-029

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱板損傷・腱板断裂を他疾患と鑑別する】「問診・圧痛・運動所見に画像検査を組み合わせる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 腱板は軟部組織である。
イ. 年齢のみでは鑑別できない。
ウ. 疼痛強度は非特異的である。
エ. 両者は肩痛を呈するため、診察とMRI・超音波等を総合する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「X線で骨折がなければ腱板断裂も否定する」に関する内容で、今回の「問診・圧痛・運動所見に画像検査を組み合わせる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「年齢だけで確定する」に関する内容で、今回の「問診・圧痛・運動所見に画像検査を組み合わせる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「痛みの強さだけで確定する」に関する内容で、今回の「問診・圧痛・運動所見に画像検査を組み合わせる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「問診・圧痛・運動所見に画像検査を組み合わせる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「問診・圧痛・運動所見に画像検査を組み合わせる」が適切である。根拠は、両者は肩痛を呈するため、診察とMRI・超音波等を総合する。

JS03-PDF-030

3-1 肩 > 腱板損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱板損傷・急性腱板損傷の対応を理解する】実習生が「受傷直後から最大抵抗運動を反復する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 急性期に過負荷を避け、評価後に適切な治療・運動へ進む。

イ. 損傷を悪化させる可能性がある。

ウ. 肩病変の重要な症状である。

エ. 再損傷リスクが高い。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「安静・疼痛管理を行い、損傷程度を評価して段階的に機能回復を図る」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後から最大抵抗運動を反復する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「受傷直後から最大抵抗運動を反復する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「夜間痛があっても評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後から最大抵抗運動を反復する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「筋力低下を無視して競技復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「受傷直後から最大抵抗運動を反復する」の理由ではない。

総合解説：「受傷直後から最大抵抗運動を反復する」は不適切である。理由は、損傷を悪化させる可能性がある。この論点での適切な判断は「安静・疼痛管理を行い、損傷程度を評価して段階的に機能回復を図る」である。

JS03-PDF-031

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・上腕骨近位部骨折の神経合併症を理解する】「腋窩神経」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下肢神経である これは「脛骨神経」に関する説明である。
- イ. 下肢神経である これは「総腓骨神経」に関する説明である。
- ウ. 外科頸周囲には腋窩神経が走行する。
- エ. 骨盤・大腿内側に関与する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「脛骨神経」に関する内容で、今回の「腋窩神経」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「総腓骨神経」に関する内容で、今回の「腋窩神経」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「腋窩神経」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「閉鎖神経」に関する内容で、今回の「腋窩神経」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「腋窩神経」が適切である。根拠は、外科頸周囲には腋窩神経が走行する。

JS03-PDF-032

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・上腕骨骨幹部骨折の神経合併症を理解する】実習生が「脛骨神経障害」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 代表的合併神経損傷は橈骨神経である。
- イ. 橈骨神経は上腕骨骨幹部後面の橈骨神経溝付近を走行する。
- ウ. 下肢神経である これは「脛骨神経障害」に関する説明である。
- エ. 下肢神経である これは「大腿神経障害」に関する説明である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「正中神経障害だけ」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経障害」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「橈骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経障害」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「脛骨神経障害」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「大腿神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経障害」の理由ではない。

総合解説：「脛骨神経障害」は不適切である。理由は、下肢神経である これは「脛骨神経障害」に関する説明である。この論点での適切な判断は「橈骨神経障害」である。

JS03-PDF-033

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・運動障害から橈骨神経障害を判断する】「橈骨神経麻痺」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下垂足を来す下肢神経障害である。
- イ. 手内筋や小指側感覚障害が中心である。
- ウ. 母指対立や手掌橈側感覚などが中心である。
- エ. 橈骨神経麻痺では手関節・手指伸展が障害され下垂手を呈する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「腓骨神経麻痺」に関する内容で、今回の「橈骨神経麻痺」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「尺骨神経麻痺」に関する内容で、今回の「橈骨神経麻痺」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「正中神経麻痺」に関する内容で、今回の「橈骨神経麻痺」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「橈骨神経麻痺」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「橈骨神経麻痺」が適切である。根拠は、橈骨神経麻痺では手関節・手指伸展が障害され下垂手を呈する。

JS03-PDF-034

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・上腕骨顆上骨折の受傷機転を理解する】実習生が「肩を軽くすくめるだけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上腕骨顆上骨折と無関係である。
- イ. 典型的機序ではない。
- ウ. 外傷機序ではない。
- エ. 伸展型が多く、手掌支持で発生しやすい。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「足関節捻挫だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肩を軽くすくめるだけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「肩を軽くすくめるだけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「座位安静のみ」に関する内容で、今回の誤判断「肩を軽くすくめるだけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「転倒・転落して手をつき肘が過伸展される」に関する内容で、今回の誤判断「肩を軽くすくめるだけ」の理由ではない。

総合解説：「肩を軽くすくめるだけ」は不適切である。理由は、典型的機序ではない。この論点での適切な判断は「転倒・転落して手をつき肘が過伸展される」である。

JS03-PDF-035

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・上腕骨顆上骨折の重篤合併症を理解する】「神経損傷と上腕動脈損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下肢神経である。
- イ. 下腿血管である。
- ウ. 骨折片で神経や血管が損傷されることがある。
- エ. 膝周囲血管である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「坐骨神経損傷だけ」に関する内容で、今回の「神経損傷と上腕動脈損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「腓骨動脈損傷だけ」に関する内容で、今回の「神経損傷と上腕動脈損傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「神経損傷と上腕動脈損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「膝窩動脈損傷だけ」に関する内容で、今回の「神経損傷と上腕動脈損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「神経損傷と上腕動脈損傷」が適切である。根拠は、骨折片で神経や血管が損傷されることがある。

JS03-PDF-036

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・血管障害を見逃さない】実習生が「さらに強く固定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 循環障害を悪化させ得る。
- イ. 虚血の警告所見である。
- ウ. 上腕動脈障害による虚血を疑う。
- エ. 早急な対応が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「さらに強く固定する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「正常反応として放置する」に関する内容で、今回の誤判断「さらに強く固定する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「血管損傷・循環障害を疑い緊急に再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「さらに強く固定する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「一週間後まで評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「さらに強く固定する」の理由ではない。

総合解説：「さらに強く固定する」は不適切である。理由は、循環障害を悪化させ得る。この論点での適切な判断は「血管損傷・循環障害を疑い緊急に再評価する」である。

JS03-PDF-037

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・虚血性合併症を理解する】「Volkman拘縮」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 前鋸筋麻痺などに関連する。
- イ. 虚血性後遺障害ではない。
- ウ. 前腕筋群の虚血により不可逆的拘縮を生じ得る。
- エ. 足部変形である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「翼状肩甲」に関する内容で、今回の「Volkman拘縮」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「反復性肩関節脱臼」に関する内容で、今回の「Volkman拘縮」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「Volkman拘縮」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「外反母趾」に関する内容で、今回の「Volkman拘縮」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「Volkman拘縮」が適切である。根拠は、前腕筋群の虚血により不可逆的拘縮を生じ得る。

JS03-PDF-038

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・小児関節周囲骨折の特徴を理解する】実習生が「必ず自然に完全整復されるため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 転位例では適切な治療が必要である。
- イ. 小児で重要な骨折である。
- ウ. 成長期の関節周囲骨折は成長や関節機能へ影響し得る。
- エ. 上肢外傷では必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず自然に完全整復されるため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「成人にしか起こらないため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず自然に完全整復されるため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「関節面・成長部を含み、転位や偽関節・変形に注意するため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず自然に完全整復されるため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「神経血管評価が不要だから」に関する内容で、今回の誤判断「必ず自然に完全整復されるため」の理由ではない。

総合解説：「必ず自然に完全整復されるため」は不適切である。理由は、転位例では適切な治療が必要である。この論点での適切な判断は「関節面・成長部を含み、転位や偽関節・変形に注意するため」である。

JS03-PDF-039

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・肘内側の局所解剖を理解する】「尺骨神経」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下肢神経である これは「大腿神経」に関する説明である。
- イ. 肩関節周囲を走行する。
- ウ. 尺骨神経は内側上顆後方を走行する。
- エ. 下肢神経である これは「総腓骨神経」に関する説明である。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。この説明は「大腿神経」に関する内容で、今回の「尺骨神経」の根拠ではない。
 - イ：誤り。この説明は「腋窩神経」に関する内容で、今回の「尺骨神経」の根拠ではない。
 - ウ：正しい。この説明が「尺骨神経」を適切とする根拠に直接対応する。
 - エ：誤り。この説明は「総腓骨神経」に関する内容で、今回の「尺骨神経」の根拠ではない。
- 総合解説：この論点では「尺骨神経」が適切である。根拠は、尺骨神経は内側上顆後方を走行する。

JS03-PDF-040

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・神経症状から障害神経を判断する】実習生が「正中神経障害」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手尺側感覚・手内筋が中心である。
- イ. 下肢神経である。
- ウ. 手掌橈側感覚や母指対立などが中心である。
- エ. 三角筋支配と上腕外側上部知覚に関与する。

答え・4肢解説

正答：ウ

- ア：誤り。この説明は「尺骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経障害」の理由ではない。
 - イ：誤り。この説明は「脛骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経障害」の理由ではない。
 - ウ：正しい。この説明が「正中神経障害」が不適切である理由に直接対応する。
 - エ：誤り。この説明は「腋窩神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「正中神経障害」の理由ではない。
- 総合解説：「正中神経障害」は不適切である。理由は、手掌橈側感覚や母指対立などが中心である。この論点での適切な判断は「腋窩神経障害」である。

JS03-PDF-041

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・固定の安全管理を理解する】「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 循環障害を招く。
- イ. 神経血管損傷と固定圧迫を評価する。
- ウ. 重要な合併症を見逃す。
- エ. 腫脹変化と神経血管状態を追う必要がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛が強いほど固定を強く締める」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動を確認する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「患側神経血管評価を省略する」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「固定後は再評価しない」に関する内容で、今回の「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「末梢脈拍、皮膚色、感覚、運動を確認する」が適切である。根拠は、神経血管損傷と固定圧迫を評価する。

JS03-PDF-042

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・二次損傷を予防する】実習生が「骨癒合が必ず瞬時に完成するため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 強い操作で治癒は完成しない。
- イ. 逆に損傷を起こし得る。
- ウ. むしろ増悪し得る。
- エ. 骨片の過度な動きで神経・血管・筋を損傷し得る。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「骨癒合が必ず瞬時に完成するため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「神経損傷を必ず予防するため」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合が必ず瞬時に完成するため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が必ず消失するため」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合が必ず瞬時に完成するため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「橈骨神経や周囲軟部組織の二次損傷を起こし得るため」に関する内容で、今回の誤判断「骨癒合が必ず瞬時に完成するため」の理由ではない。

総合解説：「骨癒合が必ず瞬時に完成するため」は不適切である。理由は、強い操作で治癒は完成しない。この論点での適切な判断は「橈骨神経や周囲軟部組織の二次損傷を起こし得るため」である。

JS03-PDF-043

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：上腕骨骨折・上腕骨顆上骨折の臨床像を理解する】「転倒後の肘の激しい疼痛・腫脹と運動困難」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 典型所見ではない。

イ. 日本整形外科学会が典型症状として挙げている。

ウ. 局所が異なる。

エ. 肘骨折の局所症状ではない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「無痛性の肩腫瘍だけ」に関する内容で、今回の「転倒後の肘の激しい疼痛・腫脹と運動困難」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「転倒後の肘の激しい疼痛・腫脹と運動困難」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「足趾しびれだけ」に関する内容で、今回の「転倒後の肘の激しい疼痛・腫脹と運動困難」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腰部叩打痛だけ」に関する内容で、今回の「転倒後の肘の激しい疼痛・腫脹と運動困難」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「転倒後の肘の激しい疼痛・腫脹と運動困難」が適切である。根拠は、日本整形外科学会が典型症状として挙げている。

JS03-PDF-044

3-2 上腕・肘 > 上腕骨骨折 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：上腕骨骨折・骨折画像評価の目的を理解する】実習生が「筋力を直接数値化する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 画像検査の目的ではない。

イ. 画像検査では測定しない。

ウ. 骨折形態と重症度の把握に重要である。

エ. 徒手筋力検査等で評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「神経伝導速度だけを測る」に関する内容で、今回の誤判断「筋力を直接数値化する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「血糖値を測る」に関する内容で、今回の誤判断「筋力を直接数値化する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折部位、転位、関節面への波及を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「筋力を直接数値化する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「筋力を直接数値化する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「筋力を直接数値化する」は不適切である。理由は、徒手筋力検査等で評価する。この論点での適切な判断は「骨折部位、転位、関節面への波及を確認する」である。

JS03-PDF-045

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肘脱臼・肘脱臼の好発方向を理解する】「後方脱臼」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 一般的分類ではない。
- イ. 後方より少ない。
- ウ. 好発型ではない。
- エ. 肘脱臼では後方脱臼が最も多い。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「中心性脱臼」に関する内容で、今回の「後方脱臼」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「前方脱臼」に関する内容で、今回の「後方脱臼」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「上方脱臼」に関する内容で、今回の「後方脱臼」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「後方脱臼」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「後方脱臼」が適切である。根拠は、肘脱臼では後方脱臼が最も多い。

JS03-PDF-046

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肘脱臼・肘後方脱臼の受傷機転を理解する】実習生が「座位安静のみ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手掌支持による介達外力で生じやすい。
- イ. 典型機序ではない。
- ウ. 外傷性脱臼の機序ではない。
- エ. 肘と無関係である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「転倒時に手をつき伸展した肘へ軸圧などが加わる」に関する内容で、今回の誤判断「座位安静のみ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「頸部屈曲だけ」に関する内容で、今回の誤判断「座位安静のみ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「座位安静のみ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「足関節底屈だけ」に関する内容で、今回の誤判断「座位安静のみ」の理由ではない。

総合解説：「座位安静のみ」は不適切である。理由は、外傷性脱臼の機序ではない。この論点での適切な判断は「転倒時に手をつき伸展した肘へ軸圧などが加わる」である。

JS03-PDF-047

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肘脱臼・肘脱臼の外観を理解する】「肘の著明な変形と正常な骨性輪郭の消失」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩脱臼の所見に近い。
- イ. 尺骨・橈骨が後方へ転位し明らかな変形を呈する。
- ウ. 急性肘脱臼の典型所見ではない。
- エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肩峰だけの突出」に関する内容で、今回の「肘の著明な変形と正常な骨性輪郭の消失」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「肘の著明な変形と正常な骨性輪郭の消失」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「手指爪変形だけ」に関する内容で、今回の「肘の著明な変形と正常な骨性輪郭の消失」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節だけの腫脹」に関する内容で、今回の「肘の著明な変形と正常な骨性輪郭の消失」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「肘の著明な変形と正常な骨性輪郭の消失」が適切である。根拠は、尺骨・橈骨が後方へ転位し明らかな変形を呈する。

JS03-PDF-048

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肘脱臼・肘脱臼の神経血管評価を理解する】実習生が「足背動脈だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 患側上肢を評価すべきである。
- イ. 下肢神経である。
- ウ. 肘脱臼の合併症評価ではない。
- エ. 肘周囲には主要神経・血管が集中する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「足背動脈だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「坐骨神経だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足背動脈だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「嗅覚だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足背動脈だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「上腕動脈を含む末梢循環と正中・尺骨・橈骨神経機能」に関する内容で、今回の誤判断「足背動脈だけ」の理由ではない。

総合解説：「足背動脈だけ」は不適切である。理由は、患側上肢を評価すべきである。この論点での適切な判断は「上腕動脈を含む末梢循環と正中・尺骨・橈骨神経機能」である。

JS03-PDF-049

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肘脱臼・血管合併症を見逃さない】「血管損傷・圧迫を疑い緊急に評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血の警告所見である。
- イ. 上腕動脈障害による虚血を考える。
- ウ. 速やかな評価が必要である。
- エ. 悪化させる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「正常所見として放置する」に関する内容で、今回の「血管損傷・圧迫を疑い緊急に評価する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「血管損傷・圧迫を疑い緊急に評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「数日後まで待つ」に関する内容で、今回の「血管損傷・圧迫を疑い緊急に評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「さらに強く固定する」に関する内容で、今回の「血管損傷・圧迫を疑い緊急に評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「血管損傷・圧迫を疑い緊急に評価する」が適切である。根拠は、上腕動脈障害による虚血を考える。

JS03-PDF-050

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肘脱臼・肘脱臼の複合損傷を理解する】実習生が「Galeazzi損傷」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 橈骨骨折と遠位橈尺関節損傷である。
- イ. 尺骨骨折と橈骨頭脱臼である。
- ウ. この3損傷の組合せをterrible triadと呼ぶ。
- エ. 橈骨遠位端骨折の一型である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「Galeazzi損傷」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「Monteggia損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Galeazzi損傷」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肘関節のterrible triad」に関する内容で、今回の誤判断「Galeazzi損傷」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「Colles骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Galeazzi損傷」の理由ではない。

総合解説：「Galeazzi損傷」は不適切である。理由は、橈骨骨折と遠位橈尺関節損傷である。この論点での適切な判断は「肘関節のterrible triad」である。

JS03-PDF-051

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肘脱臼・肘脱臼後の拘縮予防を理解する】「安定性を確認しつつ不必要な長期固定による拘縮を避ける」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 不必要な長期固定は拘縮を助長する。
- イ. 肘は拘縮しやすく、治癒と安定性をみて適切に運動へ移行する。
- ウ. 再脱臼や合併症を確認する。
- エ. 再損傷の危険がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「数か月完全不動にする」に関する内容で、今回の「安定性を確認しつつ不必要な長期固定による拘縮を避ける」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「安定性を確認しつつ不必要な長期固定による拘縮を避ける」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「整復後は再評価しない」に関する内容で、今回の「安定性を確認しつつ不必要な長期固定による拘縮を避ける」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「疼痛増悪でも最大可動域を強制する」に関する内容で、今回の「安定性を確認しつつ不必要な長期固定による拘縮を避ける」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「安定性を確認しつつ不必要な長期固定による拘縮を避ける」が適切である。根拠は、肘は拘縮しやすく、治癒と安定性をみて適切に運動へ移行する。

JS03-PDF-052

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肘脱臼・小児肘外傷を鑑別する】実習生が「上腕骨骨幹部骨折だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 年齢と機転から肘内障が重要である。
- イ. 骨折は鑑別に必要だが典型像は肘内障である。
- ウ. 典型的な年齢・受傷機転・姿勢である。
- エ. 局所と機転が異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「成人型肘後方脱臼だけ」に関する内容で、今回の誤判断「上腕骨骨幹部骨折だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「上腕骨骨幹部骨折だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「上腕骨骨幹部骨折だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩関節前方脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「上腕骨骨幹部骨折だけ」の理由ではない。

総合解説：「上腕骨骨幹部骨折だけ」は不適切である。理由は、骨折は鑑別に必要だが典型像は肘内障である。この論点での適切な判断は「肘内障」である。

JS03-PDF-053

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：肘脱臼・肘脱臼と骨折を鑑別する】「受傷機転、骨性変形、圧痛、神経血管所見を確認し画像評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 類似所見がある。
- イ. 二次損傷の危険がある。
- ウ. 脈拍の有無だけでは診断できない。
- エ. 両者は腫脹・変形・運動困難が重なる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「外観だけで確定する」に関する内容で、今回の「受傷機転、骨性変形、圧痛、神経血管所見を確認し画像評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「強く屈伸して軋轢音を出す」に関する内容で、今回の「受傷機転、骨性変形、圧痛、神経血管所見を確認し画像評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「脈拍があれば両者を否定する」に関する内容で、今回の「受傷機転、骨性変形、圧痛、神経血管所見を確認し画像評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「受傷機転、骨性変形、圧痛、神経血管所見を確認し画像評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「受傷機転、骨性変形、圧痛、神経血管所見を確認し画像評価する」が適切である。根拠は、両者は腫脹・変形・運動困難が重なる。

JS03-PDF-054

3-2 上腕・肘 > 肘脱臼 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：肘脱臼・整復中の神経症状に対応する】実習生が「整復できるまで強く続ける」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経損傷を悪化させ得る。
- イ. 圧迫を増す可能性がある。
- ウ. 警告症状である。
- エ. 新規神経症状は二次損傷の可能性がある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「整復できるまで強く続ける」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「固定をさらに強くしてから評価する」に関する内容で、今回の誤判断「整復できるまで強く続ける」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「しびれを正常反応として無視する」に関する内容で、今回の誤判断「整復できるまで強く続ける」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「操作を中止して神経血管状態を再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「整復できるまで強く続ける」の理由ではない。

総合解説：「整復できるまで強く続ける」は不適切である。理由は、神経損傷を悪化させ得る。この論点での適切な判断は「操作を中止して神経血管状態を再評価する」である。

JS03-PDF-055

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯損傷・肘内側側副靱帯の機能を理解する】「外反ストレスに対する安定性を保つ」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 内側側副靱帯は外反制動に重要である。

イ. 肘関節の安定化組織である。

ウ. 靱帯は能動運動を起こさない。

エ. 外反不安定性を抑える。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「外反ストレスに対する安定性を保つ」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩外旋だけを制御する」に関する内容で、今回の「外反ストレスに対する安定性を保つ」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「手関節背屈を起こす」に関する内容で、今回の「外反ストレスに対する安定性を保つ」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「外反を増大させる」に関する内容で、今回の「外反ストレスに対する安定性を保つ」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「外反ストレスに対する安定性を保つ」が適切である。根拠は、内側側副靱帯は外反制動に重要である。

JS03-PDF-056

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯損傷・投球による肘靱帯損傷を理解する】実習生が「前距腓靱帯」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 膝の靱帯である。

イ. 足関節外側靱帯である。

ウ. 投球時の反復外反ストレスで負荷が集中する。

エ. 肩鎖関節の靱帯である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「膝前十字靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「前距腓靱帯」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「前距腓靱帯」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「肘内側側副靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「前距腓靱帯」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩鎖靱帯」に関する内容で、今回の誤判断「前距腓靱帯」の理由ではない。

総合解説：「前距腓靱帯」は不適切である。理由は、足関節外側靱帯である。この論点での適切な判断は「肘内側側副靱帯」である。

JS03-PDF-057

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯損傷・靱帯とストレス方向を対応させる】「外反ストレス」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 外側靱帯評価に関連する。
- イ. 足関節靱帯検査である。
- ウ. 膝前十字靱帯検査である。
- エ. 内側側副靱帯の制動機能を評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「内反ストレスだけ」に関する内容で、今回の「外反ストレス」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足関節前方引き出し」に関する内容で、今回の「外反ストレス」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝Lachmanテスト」に関する内容で、今回の「外反ストレス」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「外反ストレス」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「外反ストレス」が適切である。根拠は、内側側副靱帯の制動機能を評価する。

JS03-PDF-058

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯損傷・肘外側靱帯損傷の不安定性を理解する】実習生が「足関節内側不安定性」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 膝の問題である。
- ウ. 外側靱帯複合体は肘外側・後外側安定性に関与する。
- エ. 肘外側靱帯損傷ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「股関節前方不安定性」に関する内容で、今回の誤判断「足関節内側不安定性」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「膝蓋骨脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「足関節内側不安定性」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「後外側回旋不安定性」に関する内容で、今回の誤判断「足関節内側不安定性」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「足関節内側不安定性」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「足関節内側不安定性」は不適切である。理由は、肘外側靱帯損傷ではない。この論点での適切な判断は「後外側回旋不安定性」である。

JS03-PDF-059

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯損傷・急性徒手検査の限界を理解する】「疼痛・筋性防御で不正確になり、損傷を悪化させ得るため」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 急性期は安全な範囲で評価する。
- イ. 外傷で損傷する。
- ウ. 損傷を増悪させる。
- エ. 必要に応じ画像も用いる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「疼痛・筋性防御で不正確になり、損傷を悪化させ得るため」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「靱帯は外力で損傷しないため」に関する内容で、今回の「疼痛・筋性防御で不正確になり、損傷を悪化させ得るため」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「強いほど治癒が早まるため」に関する内容で、今回の「疼痛・筋性防御で不正確になり、損傷を悪化させ得るため」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「画像検査が存在しないため」に関する内容で、今回の「疼痛・筋性防御で不正確になり、損傷を悪化させ得るため」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛・筋性防御で不正確になり、損傷を悪化させ得るため」が適切である。根拠は、急性期は安全な範囲で評価する。

JS03-PDF-060

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯損傷・靱帯損傷と骨折を鑑別する】実習生が「可動域があれば骨折を否定する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 剥離骨折などを伴う可能性がある。
- イ. 骨折や脱臼でも腫脹する。
- ウ. 複合損傷がある。
- エ. 骨折でも一部可動することがある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「靱帯圧痛だけでなく骨性圧痛や画像所見も確認する」に関する内容で、今回の誤判断「可動域があれば骨折を否定する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「腫脹があれば靱帯損傷と確定する」に関する内容で、今回の誤判断「可動域があれば骨折を否定する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「靱帯圧痛があれば骨折を否定する」に関する内容で、今回の誤判断「可動域があれば骨折を否定する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「可動域があれば骨折を否定する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「可動域があれば骨折を否定する」は不適切である。理由は、骨折でも一部可動することがある。この論点での適切な判断は「靱帯圧痛だけでなく骨性圧痛や画像所見も確認する」である。

JS03-PDF-061

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：靱帯損傷・肘靱帯損傷の後療法を理解する】「疼痛・腫脹・安定性をみながら段階的に可動域と筋力を回復する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 負荷調整が必要である。
- イ. 機能と安定性を経時評価する。
- ウ. 治癒段階に応じた負荷調整が必要である。
- エ. 再損傷の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「疼痛増悪でも投球量を増やす」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・安定性をみながら段階的に可動域と筋力を回復する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「固定後は一切再評価しない」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・安定性をみながら段階的に可動域と筋力を回復する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「疼痛・腫脹・安定性をみながら段階的に可動域と筋力を回復する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「受傷直後から最大外反ストレスを反復する」に関する内容で、今回の「疼痛・腫脹・安定性をみながら段階的に可動域と筋力を回復する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「疼痛・腫脹・安定性をみながら段階的に可動域と筋力を回復する」が適切である。根拠は、治癒段階に応じた負荷調整が必要である。

JS03-PDF-062

3-2 上腕・肘 > 靱帯損傷 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：靱帯損傷・スポーツ復帰判断を理解する】実習生が「可動域を評価しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 左右差は参考になる。
- イ. 復帰判断に重要である。
- ウ. 単一指標ではなく競技機能まで評価する。
- エ. 再損傷リスクが高い。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「健側と比較しない」に関する内容で、今回の誤判断「可動域を評価しない」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「可動域を評価しない」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛、安定性、可動域、筋力、投球動作を総合して段階的に復帰する」に関する内容で、今回の誤判断「可動域を評価しない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「安静時痛が少し減れば直ちに全力投球する」に関する内容で、今回の誤判断「可動域を評価しない」の理由ではない。

総合解説：「可動域を評価しない」は不適切である。理由は、復帰判断に重要である。この論点での適切な判断は「疼痛、安定性、可動域、筋力、投球動作を総合して段階的に復帰する」である。

JS03-PDF-063

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈尺骨骨折・前腕両骨骨折の整復目標を理解する】「橈骨と尺骨の長さ・軸・回旋関係を保つ」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 前腕回内外には橈尺骨の正しい位置関係が重要である。

イ. 前腕骨折部を安定化できない。

ウ. 回内外を著しく障害する。

エ. 前腕骨整復の評価にならない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「橈骨と尺骨の長さ・軸・回旋関係を保つ」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩関節だけを固定する」に関する内容で、今回の「橈骨と尺骨の長さ・軸・回旋関係を保つ」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「両骨を交差させて固定する」に関する内容で、今回の「橈骨と尺骨の長さ・軸・回旋関係を保つ」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指の長さだけを合わせる」に関する内容で、今回の「橈骨と尺骨の長さ・軸・回旋関係を保つ」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「橈骨と尺骨の長さ・軸・回旋関係を保つ」が適切である。根拠は、前腕回内外には橈尺骨の正しい位置関係が重要である。

JS03-PDF-064

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈尺骨骨折・前腕回旋の機能解剖を理解する】実習生が「鎖骨と胸骨だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 回内外では橈骨が尺骨の周囲を回るため骨軸・回旋変形が機能へ影響する。

イ. 下肢の関係である。

ウ. 前腕回旋の直接機構ではない。

エ. 前腕回旋そのものではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「橈骨が尺骨に対して回旋する関係」に関する内容で、今回の誤判断「鎖骨と胸骨だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「大腿骨と脛骨の関係」に関する内容で、今回の誤判断「鎖骨と胸骨だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「鎖骨と胸骨だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩甲骨と肋骨だけ」に関する内容で、今回の誤判断「鎖骨と胸骨だけ」の理由ではない。

総合解説：「鎖骨と胸骨だけ」は不適切である。理由は、前腕回旋の直接機構ではない。この論点での適切な判断は「橈骨が尺骨に対して回旋する関係」である。

JS03-PDF-065

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈尺骨骨折・前腕両骨骨折の臨床像を理解する】「前腕の疼痛・腫脹・変形と回内外障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 前腕骨折の典型症状ではない。
- イ. 局所が異なる。
- ウ. 両骨の連続性が失われると前腕形態と回旋機能が障害されやすい。
- エ. 上肢局所症状ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「頸部回旋痛だけ」に関する内容で、今回の「前腕の疼痛・腫脹・変形と回内外障害」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「膝だけの腫脹」に関する内容で、今回の「前腕の疼痛・腫脹・変形と回内外障害」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「前腕の疼痛・腫脹・変形と回内外障害」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「足趾しびれだけ」に関する内容で、今回の「前腕の疼痛・腫脹・変形と回内外障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「前腕の疼痛・腫脹・変形と回内外障害」が適切である。根拠は、両骨の連続性が失われると前腕形態と回旋機能が障害されやすい。

JS03-PDF-066

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈尺骨骨折・小児前腕骨折を理解する】実習生が「Hill-Sachs損傷」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩関節唇損傷である。
- イ. 小児骨は弾性が高く、一側皮質の破綻と反対側の連続性保持を示すことがある。
- ウ. 第5中足骨骨折である。
- エ. 肩前方脱臼に伴う骨頭損傷である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「Bankart損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Hill-Sachs損傷」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「若木骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Hill-Sachs損傷」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「Jones骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Hill-Sachs損傷」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「Hill-Sachs損傷」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「Hill-Sachs損傷」は不適切である。理由は、肩前方脱臼に伴う骨頭損傷である。この論点での適切な判断は「若木骨折」である。

JS03-PDF-067

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈尺骨骨折・コンパートメント症候群を認識する】「急性コンパートメント症候群」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 重篤な虚血性障害を除外すべきである。
- イ. 病態と年齢層が異なる。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 強い疼痛、他動伸展痛、緊満腫脹は重要な警告所見である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「単純な筋肉痛だけ」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩関節周囲炎」に関する内容で、今回の「急性コンパートメント症候群」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「急性コンパートメント症候群」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「急性コンパートメント症候群」が適切である。根拠は、強い疼痛、他動伸展痛、緊満腫脹は重要な警告所見である。

JS03-PDF-068

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈尺骨骨折・固定後神経血管障害を見逃さない】実習生が「正常反応として放置する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 虚血の警告所見である。
- イ. 悪化させ得る。
- ウ. 腫脹や過度な固定圧による循環・神経障害を疑う。
- エ. 末梢評価は重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「正常反応として放置する」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「固定をさらに強く締める」に関する内容で、今回の誤判断「正常反応として放置する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「固定による神経血管圧迫を疑い直ちに再評価する」に関する内容で、今回の誤判断「正常反応として放置する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「手指所見は前腕骨折と無関係とする」に関する内容で、今回の誤判断「正常反応として放置する」の理由ではない。

総合解説：「正常反応として放置する」は不適切である。理由は、虚血の警告所見である。この論点での適切な判断は「固定による神経血管圧迫を疑い直ちに再評価する」である。

JS03-PDF-069

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈尺骨骨折・前腕骨折の安全な診察を理解する】「軋轢音を出すため前腕を強く回内外する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. ではない。骨折形態確認に重要である。
- イ. ではない。神経血管評価として重要である。
- ウ. ではない。基本評価である。
- エ. 骨片による神経血管・軟部組織の二次損傷を招く。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「必要に応じ画像評価する」に関する内容で、今回の「軋轢音を出すため前腕を強く回内外する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「末梢脈拍・感覚・運動を確認する」に関する内容で、今回の「軋轢音を出すため前腕を強く回内外する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「変形と腫脹を観察する」に関する内容で、今回の「軋轢音を出すため前腕を強く回内外する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「軋轢音を出すため前腕を強く回内外する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「軋轢音を出すため前腕を強く回内外する」が適切である。根拠は、骨片による神経血管・軟部組織の二次損傷を招く。

JS03-PDF-070

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈尺骨骨折・変形治癒と機能障害を関連付ける】実習生が「足関節背屈」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下肢機能である これは「足関節背屈」に関する説明である。
- イ. 下肢機能である これは「膝伸展」に関する説明である。
- ウ. 橈尺骨の軸・回旋変形は回内外可動域に大きく影響する。
- エ. 前腕骨変形とは直接関係しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「足関節背屈」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「膝伸展」に関する内容で、今回の誤判断「足関節背屈」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「前腕の回内・回外」に関する内容で、今回の誤判断「足関節背屈」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「頸部側屈」に関する内容で、今回の誤判断「足関節背屈」の理由ではない。

総合解説：「足関節背屈」は不適切である。理由は、下肢機能である これは「足関節背屈」に関する説明である。この論点での適切な判断は「前腕の回内・回外」である。

JS03-PDF-071

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈尺骨骨折・橈尺骨複合損傷を理解する】「尺骨遠位部の骨折を同時に伴うことがある」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 尺骨茎状突起などの骨折を合併することがある。

イ. 合併骨折はあり得る。

ウ. 神経血管評価は必要である。

エ. 閉鎖性でも生じる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「尺骨遠位部の骨折を同時に伴うことがある」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「尺骨は絶対に損傷しない」に関する内容で、今回の「尺骨遠位部の骨折を同時に伴うことがある」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「合併骨折では神経評価不要」に関する内容で、今回の「尺骨遠位部の骨折を同時に伴うことがある」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「合併骨折は必ず開放骨折である」に関する内容で、今回の「尺骨遠位部の骨折を同時に伴うことがある」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「尺骨遠位部の骨折を同時に伴うことがある」が適切である。根拠は、尺骨茎状突起などの骨折を合併することがある。

JS03-PDF-072

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈尺骨骨折・橈骨遠位端骨折の神経合併症を理解する】実習生が「尺骨神経障害だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨片や腫脹により正中神経が圧迫されることがある。

イ. 小指・環指尺側感覚が中心である。

ウ. 肩周囲の神経である。

エ. 下肢神経である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「正中神経圧迫・障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「尺骨神経障害だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「腋窩神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「総腓骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害だけ」の理由ではない。

総合解説：「尺骨神経障害だけ」は不適切である。理由は、小指・環指尺側感覚が中心である。この論点での適切な判断は「正中神経圧迫・障害」である。

JS03-PDF-073

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈尺骨骨折・整復後評価を理解する】「軸・長さ・回旋関係と末梢神経血管状態を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 神経・腱機能確認に重要である。
- イ. 疼痛軽減だけでは整復状態を評価できない。
- ウ. 整復後も比較が必要である。
- エ. 前腕機能と安全性の双方を評価する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「指の運動は評価しない」に関する内容で、今回の「軸・長さ・回旋関係と末梢神経血管状態を確認する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛が減れば整復位確認不要」に関する内容で、今回の「軸・長さ・回旋関係と末梢神経血管状態を確認する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「末梢脈拍は整復前だけ確認する」に関する内容で、今回の「軸・長さ・回旋関係と末梢神経血管状態を確認する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「軸・長さ・回旋関係と末梢神経血管状態を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「軸・長さ・回旋関係と末梢神経血管状態を確認する」が適切である。根拠は、前腕機能と安全性の双方を評価する。

JS03-PDF-074

3-3 前腕 > 橈尺骨骨折 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈尺骨骨折・前腕骨折後の機能回復を理解する】実習生が「疼痛・腫脹変化を無視する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 拘縮・筋萎縮を招く。
- イ. 治癒段階に応じて許可された運動を段階的に行う。
- ウ. 負荷調整の指標である。
- エ. 再転位の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「非固定関節も長期完全不動にする」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛・腫脹変化を無視する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨癒合と安定性をみながら手指・肘・前腕回旋の拘縮を予防する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛・腫脹変化を無視する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「疼痛・腫脹変化を無視する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨癒合前から最大回旋力を反復する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛・腫脹変化を無視する」の理由ではない。

総合解説：「疼痛・腫脹変化を無視する」は不適切である。理由は、負荷調整の指標である。この論点での適切な判断は「骨癒合と安定性をみながら手指・肘・前腕回旋の拘縮を予防する」である。

JS03-PDF-075

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：モンテギア・Monteggia損傷を理解する】「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. Monteggia損傷の基本定義である。

イ. Galeazzi損傷である。

ウ. 定義と異なる。

エ. Monteggiaではない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「橈骨骨折と遠位橈尺関節脱臼」に関する内容で、今回の「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「上腕骨骨折と手関節脱臼」に関する内容で、今回の「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「鎖骨骨折と肩脱臼」に関する内容で、今回の「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」が適切である。根拠は、Monteggia損傷の基本定義である。

JS03-PDF-076

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：モンテギア・橈骨頭脱臼を見逃さない】実習生が「肩関節脱臼」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 尺骨骨折だけに注目すると見逃しやすい。

イ. 下肢関節である。

ウ. 構成要素ではない。

エ. 前腕損傷と無関係である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「橈骨頭脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「肩関節脱臼」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「股関節脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「肩関節脱臼」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「肩関節脱臼」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「顎関節脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「肩関節脱臼」の理由ではない。

総合解説：「肩関節脱臼」は不適切である。理由は、構成要素ではない。この論点での適切な判断は「橈骨頭脱臼」である。

JS03-PDF-077

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：モンテギア・症例からMonteggia損傷を疑う】「橈骨頭と上腕骨小頭の位置関係」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 橈骨頭脱臼の有無を確認しMonteggia損傷を評価する。

イ. 橈骨頭評価が必要である。

ウ. 前腕・肘局所評価にならない。

エ. 患部評価にならない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「橈骨頭と上腕骨小頭の位置関係」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肩甲骨だけを触診する」に関する内容で、今回の「橈骨頭と上腕骨小頭の位置関係」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「膝蓋腱反射だけを調べる」に関する内容で、今回の「橈骨頭と上腕骨小頭の位置関係」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節だけを評価する」に関する内容で、今回の「橈骨頭と上腕骨小頭の位置関係」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「橈骨頭と上腕骨小頭の位置関係」が適切である。根拠は、橈骨頭脱臼の有無を確認しMonteggia損傷を評価する。

JS03-PDF-078

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：モンテギア・Monteggia損傷の神経合併症を理解する】実習生が「脛骨神経障害」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨盤・大腿内側に関与する。

イ. 橈骨頭周囲の損傷に伴い橈骨神経深枝・後骨間神経が障害され得る。

ウ. 下肢神経である これは「大腿神経障害」に関する説明である。

エ. 下肢神経である これは「脛骨神経障害」に関する説明である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「閉鎖神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経障害」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「後骨間神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経障害」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「大腿神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「脛骨神経障害」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「脛骨神経障害」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「脛骨神経障害」は不適切である。理由は、下肢神経である これは「脛骨神経障害」に関する説明である。この論点での適切な判断は「後骨間神経障害」である。

JS03-PDF-079

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：モンテギア・後骨間神経障害を理解する】「手指伸展障害が目立ち、皮膚感覚障害は乏しい」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。
 ア. 尺骨神経障害に近い。
 イ. 後骨間神経は主に運動枝である。
 ウ. 腋窩神経障害である。
 エ. 総腓骨神経障害である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「小指皮膚感覚だけが消失する」に関する内容で、今回の「手指伸展障害が目立ち、皮膚感覚障害は乏しい」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「手指伸展障害が目立ち、皮膚感覚障害は乏しい」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「三角筋だけが麻痺する」に関する内容で、今回の「手指伸展障害が目立ち、皮膚感覚障害は乏しい」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節背屈だけが障害される」に関する内容で、今回の「手指伸展障害が目立ち、皮膚感覚障害は乏しい」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「手指伸展障害が目立ち、皮膚感覚障害は乏しい」が適切である。根拠は、後骨間神経は主に運動枝である。

JS03-PDF-080

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：モンテギア・Monteggia損傷の整復原則を理解する】実習生が「神経評価を省略する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。
 ア. 前腕機能に重要である。
 イ. 後骨間神経等を確認する。
 ウ. 脱臼残存の原因となる。
 エ. 尺骨整復が橈骨頭位置に大きく影響する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「前腕回旋を評価しない」に関する内容で、今回の誤判断「神経評価を省略する」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「神経評価を省略する」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「橈骨頭だけを見て尺骨変形を無視する」に関する内容で、今回の誤判断「神経評価を省略する」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「尺骨の長さ・軸を適切に戻し橈骨頭の整復・安定性を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「神経評価を省略する」の理由ではない。

総合解説：「神経評価を省略する」は不適切である。理由は、後骨間神経等を確認する。この論点での適切な判断は「尺骨の長さ・軸を適切に戻し橈骨頭の整復・安定性を確認する」である。

JS03-PDF-081

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：モンテギア・見逃しによる後遺症を理解する】「橈骨頭脱臼遺残による肘機能障害」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 慢性脱臼は疼痛・可動域制限・変形につながり得る。

イ. 直接の結果ではない。

ウ. 局所が異なる。

エ. 関連しない。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「橈骨頭脱臼遺残による肘機能障害」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「必ず肩腱板断裂」に関する内容で、今回の「橈骨頭脱臼遺残による肘機能障害」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず足関節拘縮」に関する内容で、今回の「橈骨頭脱臼遺残による肘機能障害」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必ず大腿骨頭壊死」に関する内容で、今回の「橈骨頭脱臼遺残による肘機能障害」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「橈骨頭脱臼遺残による肘機能障害」が適切である。根拠は、慢性脱臼は疼痛・可動域制限・変形につながり得る。

JS03-PDF-082

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：モンテギア・小児Monteggia相当損傷を理解する】実習生が「小児前腕変形は必ず無視できる」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 橈骨頭位置が重要である。

イ. 塑性変形がある。

ウ. 小児では塑性変形に橈骨頭脱臼を伴うことがある。

エ. 関節不整合を伴う場合は評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肘位置関係は確認不要」に関する内容で、今回の誤判断「小児前腕変形は必ず無視できる」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折線がなければ橈骨頭脱臼はない」に関する内容で、今回の誤判断「小児前腕変形は必ず無視できる」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「明瞭な尺骨骨折線がなくてもMonteggia相当損傷を考える」に関する内容で、今回の誤判断「小児前腕変形は必ず無視できる」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「小児前腕変形は必ず無視できる」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「小児前腕変形は必ず無視できる」は不適切である。理由は、関節不整合を伴う場合は評価が必要である。この論点での適切な判断は「明瞭な尺骨骨折線がなくてもMonteggia相当損傷を考える」である。

JS03-PDF-083

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：モンテギア・適切な画像範囲を理解する】「前腕だけでなく肘関節まで含めて橈骨頭位置を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 橈骨頭脱臼を見逃し得る。
- イ. 関連関節を含めて脱臼を評価する。
- ウ. 画像で骨・関節位置を確認する。
- エ. 患部評価にならない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「骨折部だけを狭く撮影し肘を含めない」に関する内容で、今回の「前腕だけでなく肘関節まで含めて橈骨頭位置を確認する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「前腕だけでなく肘関節まで含めて橈骨頭位置を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「外観だけで確定する」に関する内容で、今回の「前腕だけでなく肘関節まで含めて橈骨頭位置を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「下肢だけを撮影する」に関する内容で、今回の「前腕だけでなく肘関節まで含めて橈骨頭位置を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「前腕だけでなく肘関節まで含めて橈骨頭位置を確認する」が適切である。根拠は、関連関節を含めて脱臼を評価する。

JS03-PDF-084

3-3 前腕 > モンテギア 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：モンテギア・MonteggiaとGaleazziを区別する】実習生が「Galeazziは肩脱臼を伴う」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 近位橈骨頭脱臼を伴う。
- イ. 遠位橈尺関節損傷である。
- ウ. 定義が異なる。
- エ. 構成骨折と関連関節損傷部位が異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「Monteggiaは手関節だけの損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Galeazziは肩脱臼を伴う」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「Galeazziは肩脱臼を伴う」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「両者は同一損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Galeazziは肩脱臼を伴う」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「Monteggiaは尺骨骨折＋橈骨頭脱臼、Galeazziは橈骨骨折＋遠位橈尺関節損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Galeazziは肩脱臼を伴う」の理由ではない。

総合解説：「Galeazziは肩脱臼を伴う」は不適切である。理由は、遠位橈尺関節損傷である。この論点での適切な判断は「Monteggiaは尺骨骨折＋橈骨頭脱臼、Galeazziは橈骨骨折＋遠位橈尺関節損傷」である。

JS03-PDF-085

3-3 前腕 > ガレアッツィ 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：ガレアッツィ・Galeazzi損傷を理解する】「橈骨骨幹部骨折と遠位橈尺関節脱臼・不安定性」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. Galeazziではない。
- イ. Galeazzi損傷の基本定義である。
- ウ. Monteggia損傷である。
- エ. 別損傷である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「鎖骨骨折と肩脱臼」に関する内容で、今回の「橈骨骨幹部骨折と遠位橈尺関節脱臼・不安定性」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「橈骨骨幹部骨折と遠位橈尺関節脱臼・不安定性」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「尺骨骨折と橈骨頭脱臼」に関する内容で、今回の「橈骨骨幹部骨折と遠位橈尺関節脱臼・不安定性」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「上腕骨顆上骨折と肘内障」に関する内容で、今回の「橈骨骨幹部骨折と遠位橈尺関節脱臼・不安定性」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「橈骨骨幹部骨折と遠位橈尺関節脱臼・不安定性」が適切である。根拠は、Galeazzi損傷の基本定義である。

JS03-PDF-086

3-3 前腕 > ガレアッツィ 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：ガレアッツィ・遠位橈尺関節を評価する】実習生が「肩鎖関節だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 構成要素ではない。
- ウ. 前腕損傷と無関係である。
- エ. DRUJ損傷を伴うことがGaleazzi損傷の特徴である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「股関節だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肩鎖関節だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「肩鎖関節だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「膝蓋大腿関節だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肩鎖関節だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「遠位橈尺関節」に関する内容で、今回の誤判断「肩鎖関節だけ」の理由ではない。

総合解説：「肩鎖関節だけ」は不適切である。理由は、構成要素ではない。この論点での適切な判断は「遠位橈尺関節」である。

JS03-PDF-087

3-3 前腕 > ガレアツツイ 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：ガレアツツイ・Galeazzi損傷の所見を理解する】「手関節尺側痛と遠位尺骨頭の突出感」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩脱臼などの所見である。
- イ. 遠位橈尺関節不整合で生じ得る。
- ウ. 下肢神経症状である。
- エ. 膝半月板等の所見である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肩峰だけの突出」に関する内容で、今回の「手関節尺側痛と遠位尺骨頭の突出感」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「手関節尺側痛と遠位尺骨頭の突出感」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「足背感覚低下だけ」に関する内容で、今回の「手関節尺側痛と遠位尺骨頭の突出感」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「膝のロッキング」に関する内容で、今回の「手関節尺側痛と遠位尺骨頭の突出感」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「手関節尺側痛と遠位尺骨頭の突出感」が適切である。根拠は、遠位橈尺関節不整合で生じ得る。

JS03-PDF-088

3-3 前腕 > ガレアツツイ 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：ガレアツツイ・Galeazzi損傷の機能障害を理解する】実習生が「肩甲骨だけが固定されるため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 直接原因ではない。
- イ. 前腕回旋とは無関係である。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 回内外は橈尺骨と近位・遠位橈尺関節の協調で成立する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「肩甲骨だけが固定されるため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「頸椎だけが回旋するため」に関する内容で、今回の誤判断「肩甲骨だけが固定されるため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「足関節が不安定になるため」に関する内容で、今回の誤判断「肩甲骨だけが固定されるため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「橈骨骨折と遠位橈尺関節不整合で橈尺骨の回旋関係が乱れるため」に関する内容で、今回の誤判断「肩甲骨だけが固定されるため」の理由ではない。

総合解説：「肩甲骨だけが固定されるため」は不適切である。理由は、直接原因ではない。この論点での適切な判断は「橈骨骨折と遠位橈尺関節不整合で橈尺骨の回旋関係が乱れるため」である。

JS03-PDF-089

3-3 前腕 > ガレアツツイ 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：ガレアツツイ・整復後のDRUJ評価を理解する】「Galeazzi損傷として遠位橈尺関節の整合性を再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所所見が異なる。
- イ. DRUJ損傷を見逃す。
- ウ. 橈骨だけでなくDRUJの整復・安定性確認が必要である。
- エ. 不安定性を悪化させ得る。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肩脱臼を第一に考える」に関する内容で、今回の「Galeazzi損傷として遠位橈尺関節の整合性を再評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「橈骨が整復されれば手関節所見を無視する」に関する内容で、今回の「Galeazzi損傷として遠位橈尺関節の整合性を再評価する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「Galeazzi損傷として遠位橈尺関節の整合性を再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「最大負荷で前腕回旋する」に関する内容で、今回の「Galeazzi損傷として遠位橈尺関節の整合性を再評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「Galeazzi損傷として遠位橈尺関節の整合性を再評価する」が適切である。根拠は、橈骨だけでなくDRUJの整復・安定性確認が必要である。

JS03-PDF-090

3-3 前腕 > ガレアツツイ 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：ガレアツツイ・Galeazzi損傷の画像範囲を理解する】実習生が「画像検査は骨折に使えない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折・関節整合性確認に重要である。
- イ. DRUJ損傷を見逃し得る。
- ウ. 患部評価にならない。
- エ. 関連関節まで含めて損傷全体を把握する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「画像検査は骨折に使えない」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肘だけを撮影し手関節を含めない」に関する内容で、今回の誤判断「画像検査は骨折に使えない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「下腿だけを撮影する」に関する内容で、今回の誤判断「画像検査は骨折に使えない」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「前腕全体と手関節を含めて橈骨骨折と遠位橈尺関節を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「画像検査は骨折に使えない」の理由ではない。

総合解説：「画像検査は骨折に使えない」は不適切である。理由は、骨折・関節整合性確認に重要である。この論点での適切な判断は「前腕全体と手関節を含めて橈骨骨折と遠位橈尺関節を確認する」である。

JS03-PDF-091

3-3 前腕 > ガレアッツィ 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：ガレアッツィ・Galeazzi損傷の整復原則を理解する】「橈骨の長さ・軸・回旋を整え、遠位橈尺関節の安定性を確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 前腕回旋機能に重要である。
- イ. 前腕外傷では重要である。
- ウ. 主要構成要素である。
- エ. 骨折・関節全体の評価が必要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「橈骨の長さ・軸・回旋を整え、遠位橈尺関節の安定性を確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「末梢神経血管評価を省略する」に関する内容で、今回の「橈骨の長さ・軸・回旋を整え、遠位橈尺関節の安定性を確認する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「遠位橈尺関節を評価しない」に関する内容で、今回の「橈骨の長さ・軸・回旋を整え、遠位橈尺関節の安定性を確認する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「尺骨頭を強く押すだけで終了する」に関する内容で、今回の「橈骨の長さ・軸・回旋を整え、遠位橈尺関節の安定性を確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「橈骨の長さ・軸・回旋を整え、遠位橈尺関節の安定性を確認する」が適切である。根拠は、前腕回旋機能に重要である。

JS03-PDF-092

3-3 前腕 > ガレアッツィ 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：ガレアッツィ・GaleazziとMonteggiaを区別する】実習生が「利き手だけで診断する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 損傷型鑑別に無関係である。
- イ. 非特異的である。
- ウ. Galeazziは橈骨＋遠位、Monteggiaは尺骨＋近位橈骨頭で区別する。
- エ. 損傷定義を決めない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「身長だけを確認する」に関する内容で、今回の誤判断「利き手だけで診断する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「疼痛の強さだけを比較する」に関する内容で、今回の誤判断「利き手だけで診断する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨折している骨と損傷している橈尺関節の位置を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「利き手だけで診断する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「利き手だけで診断する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「利き手だけで診断する」は不適切である。理由は、損傷定義を決めない。この論点での適切な判断は「骨折している骨と損傷している橈尺関節の位置を確認する」である。

JS03-PDF-093

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈骨遠位端・橈骨遠位端骨折の受傷機転を理解する】「転倒して手掌をつき、手関節に強い外力が加わる」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 典型的な発生機序ではない。
- イ. 手関節への外力ではない。
- ウ. 通常は外力や骨脆弱性が関与する。
- エ. 橈骨遠位端骨折は転倒して手をついた際に生じやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「肩を軽くすくめただけ」に関する内容で、今回の「転倒して手掌をつき、手関節に強い外力が加わる」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足関節を内反しただけ」に関する内容で、今回の「転倒して手掌をつき、手関節に強い外力が加わる」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「安静臥床中に必ず生じる」に関する内容で、今回の「転倒して手掌をつき、手関節に強い外力が加わる」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「転倒して手掌をつき、手関節に強い外力が加わる」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「転倒して手掌をつき、手関節に強い外力が加わる」が適切である。根拠は、橈骨遠位端骨折は転倒して手をついた際に生じやすい。

JS03-PDF-094

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈骨遠位端・Colles骨折の典型変形を理解する】実習生が「肩峰突出」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 腓骨神経障害などでみられる。
- イ. 手掌をついて受傷するColles骨折では遠位骨片が背側転位し、フォーク状変形を呈し得る。
- ウ. 肩関節脱臼でみられる所見である。
- エ. 尺骨神経麻痺などでみられる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「下垂足」に関する内容で、今回の誤判断「肩峰突出」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「フォーク状変形」に関する内容で、今回の誤判断「肩峰突出」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「肩峰突出」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「鷲手変形」に関する内容で、今回の誤判断「肩峰突出」の理由ではない。

総合解説：「肩峰突出」は不適切である。理由は、肩関節脱臼でみられる所見である。この論点での適切な判断は「フォーク状変形」である。

JS03-PDF-095

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈骨遠位端・Colles骨折とSmith骨折を区別する】「遠位骨片が掌側へ転位する型が代表的である」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 背側転位はColles骨折に典型的である。

イ. Smith骨折は橈骨遠位端骨折の一型で、遠位骨片の掌側転位を特徴とする。

ウ. 別の骨折である。

エ. 橈骨遠位端骨折の分類である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「遠位骨片が必ず背側へ転位する」に関する内容で、今回の「遠位骨片が掌側へ転位する型が代表的である」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「遠位骨片が掌側へ転位する型が代表的である」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「舟状骨骨折と同義である」に関する内容で、今回の「遠位骨片が掌側へ転位する型が代表的である」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「尺骨頭脱臼だけを指す」に関する内容で、今回の「遠位骨片が掌側へ転位する型が代表的である」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「遠位骨片が掌側へ転位する型が代表的である」が適切である。根拠は、Smith骨折は橈骨遠位端骨折の一型で、遠位骨片の掌側転位を特徴とする。

JS03-PDF-096

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈骨遠位端・橈骨遠位端骨折の神経合併症を理解する】実習生が「尺骨神経障害」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 下肢の神経である。

イ. 上腕外側の感覚や三角筋に関係する。

ウ. 小指・環指尺側の感覚障害が中心である。

エ. 骨片や腫脹により手根管部で正中神経が圧迫されることがある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「総腓骨神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「腋窩神経障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「尺骨神経障害」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「正中神経圧迫・障害」に関する内容で、今回の誤判断「尺骨神経障害」の理由ではない。

総合解説：「尺骨神経障害」は不適切である。理由は、小指・環指尺側の感覚障害が中心である。この論点での適切な判断は「正中神経圧迫・障害」である。

JS03-PDF-097

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈骨遠位端・整復後の安全確認を理解する】「骨片の整復状態と末梢神経・血管機能」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 局所の整復評価にはならない。

イ. 整復位に加え、感覚・運動・循環の変化を整復前後で比較する。

ウ. 手関節外傷の評価とは無関係である。

エ. 患側上肢の末梢循環を評価すべきである。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「体脂肪率だけ」に関する内容で、今回の「骨片の整復状態と末梢神経・血管機能」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨片の整復状態と末梢神経・血管機能」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「視力だけ」に関する内容で、今回の「骨片の整復状態と末梢神経・血管機能」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足背動脈だけ」に関する内容で、今回の「骨片の整復状態と末梢神経・血管機能」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨片の整復状態と末梢神経・血管機能」が適切である。根拠は、整復位に加え、感覚・運動・循環の変化を整復前後で比較する。

JS03-PDF-098

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈骨遠位端・橈骨遠位端骨折の合併損傷を理解する】実習生が「合併しても遠位橈尺関節評価は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 合併骨折はあり得る。

イ. 橈骨遠位端骨折では尺骨茎状突起など尺骨遠位部の骨折を伴うことがある。

ウ. 尺側支持機構や遠位橈尺関節の評価も重要である。

エ. 閉鎖性でも生じる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「同時損傷は起こらない」に関する内容で、今回の誤判断「合併しても遠位橈尺関節評価は不要である」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「同時に生じることがある」に関する内容で、今回の誤判断「合併しても遠位橈尺関節評価は不要である」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「合併しても遠位橈尺関節評価は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「必ず開放骨折になる」に関する内容で、今回の誤判断「合併しても遠位橈尺関節評価は不要である」の理由ではない。

総合解説：「合併しても遠位橈尺関節評価は不要である」は不適切である。理由は、尺側支持機構や遠位橈尺関節の評価も重要である。この論点での適切な判断は「同時に生じることがある」である。

JS03-PDF-099

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈骨遠位端・関節内骨折の重要性を理解する】「関節面への骨折線・段差を画像で評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 必要に応じ左右差も参考となる。

イ. 関節面の不整は将来の疼痛や機能障害に関係するため確認が必要である。

ウ. 疼痛の強さだけでは関節内損傷を除外できない。

エ. 関節面の状態は評価できない。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「健側を一切比較しない」に関する内容で、今回の「関節面への骨折線・段差を画像で評価する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「関節面への骨折線・段差を画像で評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が少なければ画像評価を省略する」に関する内容で、今回の「関節面への骨折線・段差を画像で評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手指の長さだけで判断する」に関する内容で、今回の「関節面への骨折線・段差を画像で評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「関節面への骨折線・段差を画像で評価する」が適切である。根拠は、関節面の不整は将来の疼痛や機能障害に関係するため確認が必要である。

JS03-PDF-100

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈骨遠位端・骨脆弱性と橈骨遠位端骨折を関連付ける】実習生が「扁桃肥大だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 骨脆弱性の直接因子ではない。

イ. 骨折背景として中心的ではない。

ウ. 中高年以降の橈骨遠位端骨折では骨粗鬆症が背景にあることが多い。

エ. 骨粗鬆症関連骨折の背景ではない。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「近視だけ」に関する内容で、今回の誤判断「扁桃肥大だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「虫歯だけ」に関する内容で、今回の誤判断「扁桃肥大だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「骨粗鬆症」に関する内容で、今回の誤判断「扁桃肥大だけ」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「扁桃肥大だけ」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「扁桃肥大だけ」は不適切である。理由は、骨粗鬆症関連骨折の背景ではない。この論点での適切な判断は「骨粗鬆症」である。

JS03-PDF-101

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：橈骨遠位端・固定合併症を早期に認識する】「固定による神経・血管圧迫を疑い直ちに再評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 末梢神経血管評価は重要である。
- イ. 悪化させる可能性がある。
- ウ. 虚血・神経圧迫の警告所見である。
- エ. 腫脹増大や過度な圧迫で循環・神経障害を生じる可能性がある。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「手指所見は手関節骨折と無関係とする」に関する内容で、今回の「固定による神経・血管圧迫を疑い直ちに再評価する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「さらに強く締める」に関する内容で、今回の「固定による神経・血管圧迫を疑い直ちに再評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「正常な固定反応として放置する」に関する内容で、今回の「固定による神経・血管圧迫を疑い直ちに再評価する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「固定による神経・血管圧迫を疑い直ちに再評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「固定による神経・血管圧迫を疑い直ちに再評価する」が適切である。根拠は、腫脹増大や過度な圧迫で循環・神経障害を生じる可能性がある。

JS03-PDF-102

3-4 手関節 > 橈骨遠位端 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：橈骨遠位端・橈骨遠位端骨折後の後療法を理解する】実習生が「疼痛・腫脹の変化を無視する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 非固定関節の拘縮や腫脹を予防しながら骨癒合を守る。
- イ. 拘縮や筋萎縮を招く。
- ウ. 負荷量調整の指標である。
- エ. 再転位の危険がある。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨折部の安定性を守りつつ、許可された手指・肘・肩の運動を行う」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛・腫脹の変化を無視する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「非固定関節も長期完全不動にする」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛・腫脹の変化を無視する」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「疼痛・腫脹の変化を無視する」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「骨癒合前から最大負荷で手関節を反復運動する」に関する内容で、今回の誤判断「疼痛・腫脹の変化を無視する」の理由ではない。

総合解説：「疼痛・腫脹の変化を無視する」は不適切である。理由は、負荷量調整の指標である。この論点での適切な判断は「骨折部の安定性を守りつつ、許可された手指・肘・肩の運動を行う」である。

JS03-PDF-103

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：手根骨・手根骨の基本構成を理解する】「8個（近位列4個・遠位列4個）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 14個は片手の指骨総数であり、手根骨の個数ではない。

イ. 5本は中手骨の本数であり、手根骨の個数ではない。

ウ. 手根骨は近位列4個、遠位列4個の計8個である。

エ. 7個は足根骨の個数であり、手根骨は8個である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「14個（片手の指骨総数と混同した数）」に関する内容で、今回の「8個（近位列4個・遠位列4個）」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「5個（中手骨の本数と混同した数）」に関する内容で、今回の「8個（近位列4個・遠位列4個）」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「8個（近位列4個・遠位列4個）」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「7個（足根骨の個数と混同した数）」に関する内容で、今回の「8個（近位列4個・遠位列4個）」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「8個（近位列4個・遠位列4個）」が適切である。根拠は、手根骨は近位列4個、遠位列4個の計8個である。

JS03-PDF-104

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：手根骨・舟状骨骨折の重要性を理解する】実習生が「豆状骨だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 単独骨折は比較的まれである。

イ. 舟状骨骨折は手根骨骨折の代表で、初期X線で見逃されることがある。

ウ. 舟状骨骨折がより重要である。

エ. 舟状骨ほど代表的ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「大菱形骨だけ」に関する内容で、今回の誤判断「豆状骨だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「舟状骨」に関する内容で、今回の誤判断「豆状骨だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「豆状骨だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「有頭骨だけ」に関する内容で、今回の誤判断「豆状骨だけ」の理由ではない。

総合解説：「豆状骨だけ」は不適切である。理由は、舟状骨骨折がより重要である。この論点での適切な判断は「舟状骨」である。

JS03-PDF-105

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：手根骨・舟状骨骨折の受傷機転を理解する】「手関節を背屈して手をつく」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 若年者が手関節過伸展位で転倒して生じることが多い。

イ. 舟状骨へ強い外力が加わらない。

ウ. 典型機序ではない。

エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「手関節を背屈して手をつく」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肘を屈曲するだけ」に関する内容で、今回の「手関節を背屈して手をつく」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩を内旋するだけ」に関する内容で、今回の「手関節を背屈して手をつく」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節を底屈する」に関する内容で、今回の「手関節を背屈して手をつく」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「手関節を背屈して手をつく」が適切である。根拠は、若年者が手関節過伸展位で転倒して生じることが多い。

JS03-PDF-106

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：手根骨・舟状骨骨折の触診部位を理解する】実習生が「肘頭だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 肘後方の部位である。

イ. 肩帯の部位である。

ウ. 手関節母指側の舟状骨部圧痛は重要な診察所見である。

エ. 肘内側である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「肘頭だけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「鎖骨中央部だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肘頭だけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「解剖学的嗅ぎタバコ窩周辺」に関する内容で、今回の誤判断「肘頭だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「上腕骨内側上顆だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肘頭だけ」の理由ではない。

総合解説：「肘頭だけ」は不適切である。理由は、肘後方の部位である。この論点での適切な判断は「解剖学的嗅ぎタバコ窩周辺」である。

JS03-PDF-107

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：手根骨・舟状骨骨折の見逃しを防ぐ】「臨床的に疑わしければ骨折を否定せず追加・再画像評価を考える」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 舟状骨は通常のX線で骨折線が見えにくいことがある。
- イ. 初期に描出されにくい骨折がある。
- ウ. 見逃しで偽関節となる可能性がある。
- エ. 画像と臨床所見を統合する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「臨床的に疑わしければ骨折を否定せず追加・再画像評価を考える」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「X線陰性なら骨折は絶対にない」に関する内容で、今回の「臨床的に疑わしければ骨折を否定せず追加・再画像評価を考える」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「母指側痛があっても直ちに競技復帰する」に関する内容で、今回の「臨床的に疑わしければ骨折を否定せず追加・再画像評価を考える」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「画像より外観だけを優先して確定する」に関する内容で、今回の「臨床的に疑わしければ骨折を否定せず追加・再画像評価を考える」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「臨床的に疑わしければ骨折を否定せず追加・再画像評価を考える」が適切である。根拠は、舟状骨は通常のX線で骨折線が見えにくいことがある。

JS03-PDF-108

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：手根骨・舟状骨骨折の治癒特性を理解する】実習生が「舟状骨には血液が全く流れない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 多くは閉鎖性である。
- イ. 舟状骨は血行特性から骨癒合遅延・偽関節に注意が必要である。
- ウ. 血流は存在するが部位により条件が異なる。
- エ. 手関節機能上重要な骨である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「必ず開放骨折になる」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨には血液が全く流れない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「血行条件が不利な部位があり骨癒合しにくいことがある」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨には血液が全く流れない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「舟状骨には血液が全く流れない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「関節運動と無関係な骨だから」に関する内容で、今回の誤判断「舟状骨には血液が全く流れない」の理由ではない。

総合解説：「舟状骨には血液が全く流れない」は不適切である。理由は、血流は存在するが部位により条件が異なる。この論点での適切な判断は「血行条件が不利な部位があり骨癒合しにくいことがある」である。

JS03-PDF-109

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：手根骨・月状骨病変を理解する】「Kienb ö ck病」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. Kienb ö ck病は月状骨の無腐性壊死・軟化を主体とする疾患である。

イ. 第一背側区画の腱鞘炎である。

ウ. 屈筋腱と腱鞘の狭窄性病変である。

エ. 手掌腱膜の線維化による拘縮である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「Kienb ö ck病」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「De Quervain病」に関する内容で、今回の「Kienb ö ck病」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「ばね指」に関する内容で、今回の「Kienb ö ck病」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「Dupuytren拘縮」に関する内容で、今回の「Kienb ö ck病」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「Kienb ö ck病」が適切である。根拠は、Kienb ö ck病は月状骨の無腐性壊死・軟化を主体とする疾患である。

JS03-PDF-110

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：手根骨・重度手根骨損傷の合併症を理解する】実習生が「肩峰の高さだけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 手根骨損傷の局所評価にならない。

イ. 手根管内圧上昇や配列異常により正中神経障害を伴うことがある。

ウ. 下肢神経である。

エ. 下肢循環評価である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「肩峰の高さだけ」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「正中神経症状と手根骨配列」に関する内容で、今回の誤判断「肩峰の高さだけ」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「坐骨神経だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肩峰の高さだけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「足背動脈だけ」に関する内容で、今回の誤判断「肩峰の高さだけ」の理由ではない。

総合解説：「肩峰の高さだけ」は不適切である。理由は、手根骨損傷の局所評価にならない。この論点での適切な判断は「正中神経症状と手根骨配列」である。

JS03-PDF-111

3-4 手関節 > 手根骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：手根骨・手根骨損傷を系統的に評価する】「局所圧痛、手関節可動域、神経所見を確認し、必要に応じ画像で骨配列を評価する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手根骨損傷は小さな骨のため見逃しやすく、臨床所見と画像を組み合わせる。
- イ. 二次損傷を招く。
- ウ. 非特異的である。
- エ. 舟状骨などでは腫脹が目立たないこともある。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「局所圧痛、手関節可動域、神経所見を確認し、必要に応じ画像で骨配列を評価する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「強く手関節を反復捻転して軋轢音を確認する」に関する内容で、今回の「局所圧痛、手関節可動域、神経所見を確認し、必要に応じ画像で骨配列を評価する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛の強さだけで骨を特定する」に関する内容で、今回の「局所圧痛、手関節可動域、神経所見を確認し、必要に応じ画像で骨配列を評価する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「腫脹が少なければ骨折を否定する」に関する内容で、今回の「局所圧痛、手関節可動域、神経所見を確認し、必要に応じ画像で骨配列を評価する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「局所圧痛、手関節可動域、神経所見を確認し、必要に応じ画像で骨配列を評価する」が適切である。根拠は、手根骨損傷は小さな骨のため見逃しやすく、臨床所見と画像を組み合わせる。

JS03-PDF-112

3-4 手関節 > TFCC 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：TFCC・TFCCの解剖学的位置を理解する】実習生が「手掌中央の屈筋腱だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手関節尺側の構造である。
- イ. TFCCは腱単独ではない。
- ウ. TFCCは手関節尺側の支持・荷重伝達に関わる複合体である。
- エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肘後方だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手掌中央の屈筋腱だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「手掌中央の屈筋腱だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「手関節尺側、尺骨遠位端と手根骨の間」に関する内容で、今回の誤判断「手掌中央の屈筋腱だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩関節前方だけ」に関する内容で、今回の誤判断「手掌中央の屈筋腱だけ」の理由ではない。

総合解説：「手掌中央の屈筋腱だけ」は不適切である。理由は、TFCCは腱単独ではない。この論点での適切な判断は「手関節尺側、尺骨遠位端と手根骨の間」である。

JS03-PDF-113

3-4 手関節 > TFCC 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：TFCC・TFCCの機能を理解する】「遠位橈尺関節の安定化と尺側荷重の緩衝」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 上腕三頭筋などが関与する。
- イ. 屈筋腱の機能である。
- ウ. TFCCはDRUJ安定性と手関節尺側の荷重分散に関与する。
- エ. TFCCの機能ではない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「肘伸展だけを制御する」に関する内容で、今回の「遠位橈尺関節の安定化と尺側荷重の緩衝」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「指を能動的に屈曲させる」に関する内容で、今回の「遠位橈尺関節の安定化と尺側荷重の緩衝」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「遠位橈尺関節の安定化と尺側荷重の緩衝」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩関節外転だけを起こす」に関する内容で、今回の「遠位橈尺関節の安定化と尺側荷重の緩衝」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「遠位橈尺関節の安定化と尺側荷重の緩衝」が適切である。根拠は、TFCCはDRUJ安定性と手関節尺側の荷重分散に関与する。

JS03-PDF-114

3-4 手関節 > TFCC 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：TFCC・TFCC損傷の典型症状を理解する】実習生が「足底痛だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 肩病変である。
- ウ. 下肢症状である。
- エ. TFCC損傷では小指側の手関節痛が典型的である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「膝前面痛だけ」に関する内容で、今回の誤判断「足底痛だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「肩峰部だけの痛み」に関する内容で、今回の誤判断「足底痛だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「足底痛だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「手関節尺側痛」に関する内容で、今回の誤判断「足底痛だけ」の理由ではない。

総合解説：「足底痛だけ」は不適切である。理由は、下肢症状である。この論点での適切な判断は「手関節尺側痛」である。

JS03-PDF-115

3-4 手関節 > TFCC 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：TFCC・症例からTFCC損傷を推定する】「TFCC損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 肩の損傷である。
- イ. 肘周囲骨折である。
- ウ. 手をつく外傷後の尺側痛と回旋・捻り動作痛はTFCC損傷を示唆する。
- エ. 主に乳幼児の肘外傷である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腱板断裂」に関する内容で、今回の「TFCC損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「上腕骨顆上骨折」に関する内容で、今回の「TFCC損傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「TFCC損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の「TFCC損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「TFCC損傷」が適切である。根拠は、手をつく外傷後の尺側痛と回旋・捻り動作痛はTFCC損傷を示唆する。

JS03-PDF-116

3-4 手関節 > TFCC 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：TFCC・TFCCに負荷がかかる動作を理解する】実習生が「膝伸展だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手関節尺側への負荷ではない。
- イ. TFCC症状を誘発する動作ではない。
- ウ. 下肢の動作である。
- エ. TFCCは遠位橈尺関節安定性と尺側荷重に関係し、回旋や尺屈負荷で痛みが出やすい。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「頸部屈曲だけ」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「膝伸展だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「足関節背屈だけ」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「前腕回内外や手関節尺屈を伴う負荷動作」に関する内容で、今回の誤判断「膝伸展だけ」の理由ではない。

総合解説：「膝伸展だけ」は不適切である。理由は、TFCC症状を誘発する動作ではない。この論点での適切な判断は「前腕回内外や手関節尺屈を伴う負荷動作」である。

JS03-PDF-117

3-4 手関節 > TFCC 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：TFCC・TFCC損傷の検査法を理解する】「MRIや関節造影、必要に応じ関節鏡」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. TFCC評価の中心ではない。
- イ. 手関節軟部組織の評価にならない。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. TFCCの連続性や損傷部位の評価に用いられる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「腹部超音波だけ」に関する内容で、今回の「MRIや関節造影、必要に応じ関節鏡」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「胸部X線だけ」に関する内容で、今回の「MRIや関節造影、必要に応じ関節鏡」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「頭部CTだけ」に関する内容で、今回の「MRIや関節造影、必要に応じ関節鏡」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「MRIや関節造影、必要に応じ関節鏡」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「MRIや関節造影、必要に応じ関節鏡」が適切である。根拠は、TFCCの連続性や損傷部位の評価に用いられる。

JS03-PDF-118

3-4 手関節 > TFCC 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：TFCC・TFCCとDRUJ安定性を関連付ける】実習生が「不安定性は肩関節にしか生じない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 重要な支持機構である。
- イ. TFCCはDRUJの主要な安定化構造の一つである。
- ウ. 回内外痛・不安定感を生じ得る。
- エ. DRUJにも不安定性は生じる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「TFCCはDRUJ安定性に関係しない」に関する内容で、今回の誤判断「不安定性は肩関節にしか生じない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「TFCCの深部支持構造が損傷すると遠位橈尺関節が不安定になることがある」に関する内容で、今回の誤判断「不安定性は肩関節にしか生じない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「TFCC損傷では前腕回旋は影響を受けない」に関する内容で、今回の誤判断「不安定性は肩関節にしか生じない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「不安定性は肩関節にしか生じない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「不安定性は肩関節にしか生じない」は不適切である。理由は、DRUJにも不安定性は生じる。この論点での適切な判断は「TFCCの深部支持構造が損傷すると遠位橈尺関節が不安定になることがある」である。

JS03-PDF-119

3-4 手関節 > TFCC 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：TFCC・TFCC損傷の初期対応を理解する】「急性期は負荷を避け、必要に応じ固定し、症状に応じ段階的に機能回復を図る」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 軽症例などでは安静・固定などの保存療法が選択される。
- イ. 尺側負荷を増大させる。
- ウ. 症状を悪化させる可能性がある。
- エ. 病態評価に重要である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「急性期は負荷を避け、必要に応じ固定し、症状に応じ段階的に機能回復を図る」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「急性期から最大荷重で腕立て伏せを反復する」に関する内容で、今回の「急性期は負荷を避け、必要に応じ固定し、症状に応じ段階的に機能回復を図る」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が強いほど捻り動作を増やす」に関する内容で、今回の「急性期は負荷を避け、必要に応じ固定し、症状に応じ段階的に機能回復を図る」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「遠位橈尺関節の安定性を確認しない」に関する内容で、今回の「急性期は負荷を避け、必要に応じ固定し、症状に応じ段階的に機能回復を図る」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「急性期は負荷を避け、必要に応じ固定し、症状に応じ段階的に機能回復を図る」が適切である。根拠は、軽症例などでは安静・固定などの保存療法が選択される。

JS03-PDF-120

3-4 手関節 > TFCC 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：TFCC・橈骨遠位端骨折後の尺側痛を鑑別する】実習生が「上腕骨骨幹部骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 主に小児の肘外傷である。
- イ. すでに遠位橈骨部の症状である。
- ウ. 橈骨遠位端骨折に伴ってTFCCや遠位橈尺関節支持機構が損傷することがある。
- エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「上腕骨骨幹部骨折」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「上腕骨骨幹部骨折」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「TFCC損傷」に関する内容で、今回の誤判断「上腕骨骨幹部骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「肩関節前方脱臼」に関する内容で、今回の誤判断「上腕骨骨幹部骨折」の理由ではない。

総合解説：「上腕骨骨幹部骨折」は不適切である。理由は、すでに遠位橈骨部の症状である。この論点での適切な判断は「TFCC損傷」である。

JS03-PDF-121

3-5 手指 > 中手骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中手骨・中手骨の基本解剖を理解する】「5本（第1～第5中手骨）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 中手骨は第1～第5中手骨の計5本である。
- イ. 8個は手根骨の個数であり、中手骨は5本である。
- ウ. 14個は片手の指骨総数であり、中手骨は5本である。
- エ. 母指列を除いて数えており、第1中手骨を含めれば5本である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「5本（第1～第5中手骨）」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「8本（手根骨の個数と混同した数）」に関する内容で、今回の「5本（第1～第5中手骨）」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「14本（片手の指骨総数と混同した数）」に関する内容で、今回の「5本（第1～第5中手骨）」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「4本（母指列を除いて数えた誤り）」に関する内容で、今回の「5本（第1～第5中手骨）」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「5本（第1～第5中手骨）」が適切である。根拠は、中手骨は第1～第5中手骨の計5本である。

JS03-PDF-122

3-5 手指 > 中手骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中手骨・中手骨頸部骨折の名称を理解する】実習生が「Monteggia骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 第5中手骨頸部骨折は拳で物を殴る機転で生じやすく、ボクサー骨折と呼ばれる。
- イ. 手根骨骨折である。
- ウ. 橈骨遠位端骨折である。
- エ. 尺骨骨折と橈骨頭脱臼である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「ボクサー骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Monteggia骨折」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「舟状骨骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Monteggia骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「Colles骨折」に関する内容で、今回の誤判断「Monteggia骨折」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「Monteggia骨折」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「Monteggia骨折」は不適切である。理由は、尺骨骨折と橈骨頭脱臼である。この論点での適切な判断は「ボクサー骨折」である。

JS03-PDF-123

3-5 手指 > 中手骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中手骨・中手骨骨折の回旋変形を評価する】「手指を屈曲させ、指先の向きや重なりを比較する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨折回旋評価と無関係である。
- イ. 手指回旋変形の評価にならない。
- ウ. 患手評価ではない。
- エ. 回旋変形では握り込み時に隣接指との交差や指先方向の異常が現れやすい。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「視力を測定する」に関する内容で、今回の「手指を屈曲させ、指先の向きや重なりを比較する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「肩関節外転角度だけを測る」に関する内容で、今回の「手指を屈曲させ、指先の向きや重なりを比較する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「足趾を屈曲させる」に関する内容で、今回の「手指を屈曲させ、指先の向きや重なりを比較する」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「手指を屈曲させ、指先の向きや重なりを比較する」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「手指を屈曲させ、指先の向きや重なりを比較する」が適切である。根拠は、回旋変形では握り込み時に隣接指との交差や指先方向の異常が現れやすい。

JS03-PDF-124

3-5 手指 > 中手骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中手骨・回旋変形の機能的意義を理解する】実習生が「必ず正中神経麻痺になるため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 回旋変形そのものの必発合併症ではない。
- イ. わずかな回旋変形でも末梢の指では重なりが大きくなり機能障害につながる。
- ウ. 局所が異なる。
- エ. 下肢とは無関係である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「必ず正中神経麻痺になるため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「握り込み時に指が交差し把持機能を障害するため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず正中神経麻痺になるため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「必ず肩関節脱臼を起こすため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず正中神経麻痺になるため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「足関節可動域を低下させるため」に関する内容で、今回の誤判断「必ず正中神経麻痺になるため」の理由ではない。

総合解説：「必ず正中神経麻痺になるため」は不適切である。理由は、回旋変形そのものの必発合併症ではない。この論点での適切な判断は「握り込み時に指が交差し把持機能を障害するため」である。

JS03-PDF-125

3-5 手指 > 中手骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中手骨・Bennett骨折を理解する】「Bennett骨折」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 前腕近位の骨折脱臼である。
- イ. 末節伸筋機構の損傷である。
- ウ. 橈骨遠位端骨折である。
- エ. 母指中手骨基部の関節内骨折脱臼として重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「Monteggia損傷」に関する内容で、今回の「Bennett骨折」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「Mallet finger」に関する内容で、今回の「Bennett骨折」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「Colles骨折」に関する内容で、今回の「Bennett骨折」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「Bennett骨折」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「Bennett骨折」が適切である。根拠は、母指中手骨基部の関節内骨折脱臼として重要である。

JS03-PDF-126

3-5 手指 > 中手骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中手骨・Bennett骨折の転位機序を理解する】実習生が「手関節を動かしても全く影響しないため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 複数の筋が関与する。
- イ. 閉鎖性でも生じる。
- ウ. 筋牽引により中手骨が転位しやすく、関節整合性保持が課題となる。
- エ. 母指列への力が骨折部へ伝わる。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「母指中手骨には筋が付着しないため」に関する内容で、今回の誤判断「手関節を動かしても全く影響しないため」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨折部が必ず開放創になるため」に関する内容で、今回の誤判断「手関節を動かしても全く影響しないため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「母指中手骨に付着する筋の牽引で骨片が再転位しやすいため」に関する内容で、今回の誤判断「手関節を動かしても全く影響しないため」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「手関節を動かしても全く影響しないため」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「手関節を動かしても全く影響しないため」は不適切である。理由は、母指列への力が骨折部へ伝わる。この論点での適切な判断は「母指中手骨に付着する筋の牽引で骨片が再転位しやすいため」である。

JS03-PDF-127

3-5 手指 > 中手骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中手骨・中手骨短縮の機能的影響を理解する】「指伸展機構の張力関係が変化し、握力や伸展機能に影響する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 中手骨長の変化は腱バランスと手指機能に影響し得る。
- イ. 中手骨短縮の直接結果ではない。
- ウ. 関連しない。
- エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「指伸展機構の張力関係が変化し、握力や伸展機能に影響する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「必ず肩が脱臼する」に関する内容で、今回の「指伸展機構の張力関係が変化し、握力や伸展機能に影響する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「視力が低下する」に関する内容で、今回の「指伸展機構の張力関係が変化し、握力や伸展機能に影響する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「必ず膝伸展が障害される」に関する内容で、今回の「指伸展機構の張力関係が変化し、握力や伸展機能に影響する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「指伸展機構の張力関係が変化し、握力や伸展機能に影響する」が適切である。根拠は、中手骨長の変化は腱バランスと手指機能に影響し得る。

JS03-PDF-128

3-5 手指 > 中手骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中手骨・中手骨骨折を系統的に評価する】実習生が「回旋変形を一切確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 非特異的である。
- イ. 手の機能上、回旋変形と末梢循環・感覚評価が重要である。
- ウ. 末梢循環評価が必要である。
- エ. 重要な機能障害因子である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「疼痛の強さだけで骨折型を決める」に関する内容で、今回の誤判断「回旋変形を一切確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「腫脹・圧痛・変形に加え、各指の回旋と神経血管状態を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「回旋変形を一切確認しない」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「指先循環を確認しない」に関する内容で、今回の誤判断「回旋変形を一切確認しない」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「回旋変形を一切確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「回旋変形を一切確認しない」は不適切である。理由は、重要な機能障害因子である。この論点での適切な判断は「腫脹・圧痛・変形に加え、各指の回旋と神経血管状態を確認する」である。

JS03-PDF-129

3-5 手指 > 中手骨 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中手骨・中手骨骨折固定の原則を理解する】「回旋・角状変形を残さず、必要な関節を適切な肢位で保護する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手指機能を考慮した整復位と固定肢位が重要である。
- イ. 循環障害を招く。
- ウ. 握り込み時の交差を生じる。
- エ. 圧迫障害を見逃す。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「回旋・角状変形を残さず、必要な関節を適切な肢位で保護する」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「指先が蒼白になるまで締める」に関する内容で、今回の「回旋・角状変形を残さず、必要な関節を適切な肢位で保護する」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「回旋変形は機能に影響しないので無視する」に関する内容で、今回の「回旋・角状変形を残さず、必要な関節を適切な肢位で保護する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「固定後の腫脹変化を確認しない」に関する内容で、今回の「回旋・角状変形を残さず、必要な関節を適切な肢位で保護する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「回旋・角状変形を残さず、必要な関節を適切な肢位で保護する」が適切である。根拠は、手指機能を考慮した整復位と固定肢位が重要である。

JS03-PDF-130

3-5 手指 > 中手骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中手骨・開放中手骨骨折の合併損傷を理解する】実習生が「指の運動・感覚を確認しない」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 手背には伸筋腱などが近接し、開放骨折では感染も問題となる。
- イ. 感染や組織損傷を招く。
- ウ. 腱・神経損傷評価が必要である。
- エ. 感染・二次損傷を悪化させる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「開放骨折と腱・神経損傷の可能性を考え、創を保護して医療評価する」に関する内容で、今回の誤判断「指の運動・感覚を確認しない」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「骨片を創内へ押し込む」に関する内容で、今回の誤判断「指の運動・感覚を確認しない」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「指の運動・感覚を確認しない」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「創を無視して強く揉む」に関する内容で、今回の誤判断「指の運動・感覚を確認しない」の理由ではない。

総合解説：「指の運動・感覚を確認しない」は不適切である。理由は、腱・神経損傷評価が必要である。この論点での適切な判断は「開放骨折と腱・神経損傷の可能性を考え、創を保護して医療評価する」である。

JS03-PDF-131

3-5 手指 > 中手骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：中手骨・中手骨骨折後の機能回復を理解する】「骨癒合と安定性を守りながら、許可された範囲で指の拘縮を予防する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 整復不良が機能を妨げる。
- イ. 手指は拘縮しやすく、治癒段階に応じた運動が重要である。
- ウ. 負荷調整が必要である。
- エ. 拘縮の原因となる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「回旋変形を残したまま機能訓練だけ行う」に関する内容で、今回の「骨癒合と安定性を守りながら、許可された範囲で指の拘縮を予防する」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「骨癒合と安定性を守りながら、許可された範囲で指の拘縮を予防する」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「疼痛が増えても最大握力訓練を続ける」に関する内容で、今回の「骨癒合と安定性を守りながら、許可された範囲で指の拘縮を予防する」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「安定していても全指を長期間完全不動にする」に関する内容で、今回の「骨癒合と安定性を守りながら、許可された範囲で指の拘縮を予防する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「骨癒合と安定性を守りながら、許可された範囲で指の拘縮を予防する」が適切である。根拠は、手指は拘縮しやすく、治癒段階に応じた運動が重要である。

JS03-PDF-132

3-5 手指 > 中手骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：中手骨・関節内中手骨骨折の整復意義を理解する】実習生が「足関節不安定性を防ぐため」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる これは「足関節不安定性を防ぐため」に関する説明である。
- イ. 局所が異なる これは「頸椎変形を防ぐため」に関する説明である。
- ウ. 関連しない。
- エ. 関節内骨折では関節面整合性が長期機能に影響する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「足関節不安定性を防ぐため」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「頸椎変形を防ぐため」に関する内容で、今回の誤判断「足関節不安定性を防ぐため」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「肩腱板断裂を防ぐため」に関する内容で、今回の誤判断「足関節不安定性を防ぐため」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「母指CM関節の疼痛や将来の変形性関節症につながり得るため」に関する内容で、今回の誤判断「足関節不安定性を防ぐため」の理由ではない。

総合解説：「足関節不安定性を防ぐため」は不適切である。理由は、局所が異なる これは「足関節不安定性を防ぐため」に関する説明である。この論点での適切な判断は「母指CM関節の疼痛や将来の変形性関節症につながり得るため」である。

JS03-PDF-133

3-5 手指 > 指骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：指骨・指骨の基本構成を理解する】「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 5本は中手骨の本数であり、1本の指の指骨数ではない。
- イ. 末節骨だけを数えており、基節骨・中節骨も含めて3個である。
- ウ. 母指以外の指は通常、基節骨・中節骨・末節骨の3個からなる。
- エ. 2個は母指の指骨構成で、示指～小指は通常3個である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「5個（中手骨の本数と混同した数）」に関する内容で、今回の「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「1個（末節骨だけを数えた誤り）」に関する内容で、今回の「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「2個（母指の指骨構成）」に関する内容で、今回の「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「3個（基節骨・中節骨・末節骨）」が適切である。根拠は、母指以外の指は通常、基節骨・中節骨・末節骨の3個からなる。

JS03-PDF-134

3-5 手指 > 指骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：指骨・母指の指骨構成を理解する】実習生が「1個（末節骨だけを数えた誤り）」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 母指は基節骨と末節骨の2個からなる。
- イ. 3個は示指～小指の通常の指骨構成である。
- ウ. 母指の指骨は4個ではなく2個である。
- エ. 母指には基節骨と末節骨があり、2個である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「2個（基節骨と末節骨）」に関する内容で、今回の誤判断「1個（末節骨だけを数えた誤り）」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「3個（示指～小指の構成と混同）」に関する内容で、今回の誤判断「1個（末節骨だけを数えた誤り）」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「4個（指骨構成にはない数）」に関する内容で、今回の誤判断「1個（末節骨だけを数えた誤り）」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「1個（末節骨だけを数えた誤り）」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「1個（末節骨だけを数えた誤り）」は不適切である。理由は、母指には基節骨と末節骨があり、2個である。この論点での適切な判断は「2個（基節骨と末節骨）」である。

JS03-PDF-135

3-5 手指 > 指骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：指骨・指骨骨折の回旋変形を評価する】「指を屈曲させ、指先の向きや隣接指との重なりを確認する」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 回旋変形評価とは無関係である。
- イ. 患手評価ではない。
- ウ. 回旋変形は握り込み時に顕在化しやすい。
- エ. 指の回旋評価にならない。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「目を閉じる」に関する内容で、今回の「指を屈曲させ、指先の向きや隣接指との重なりを確認する」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「足趾を屈曲させる」に関する内容で、今回の「指を屈曲させ、指先の向きや隣接指との重なりを確認する」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「指を屈曲させ、指先の向きや隣接指との重なりを確認する」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩を外転させる」に関する内容で、今回の「指を屈曲させ、指先の向きや隣接指との重なりを確認する」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「指を屈曲させ、指先の向きや隣接指との重なりを確認する」が適切である。根拠は、回旋変形は握り込み時に顕在化しやすい。

JS03-PDF-136

3-5 手指 > 指骨 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：指骨・指骨関節内骨折の重要性を理解する】実習生が「関節運動に影響しないから」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. X線等で関節面を評価する。
- イ. 疼痛・腫脹を伴う。
- ウ. むしろ機能障害を生じやすい。
- エ. PIP・DIP・MP関節周囲の関節内骨折は整合性が機能に影響する。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「画像検査では評価できないから」に関する内容で、今回の誤判断「関節運動に影響しないから」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「関節内骨折は必ず無痛だから」に関する内容で、今回の誤判断「関節運動に影響しないから」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「関節運動に影響しないから」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「関節面の不整が残ると疼痛・拘縮・変形性変化につながり得るため」に関する内容で、今回の誤判断「関節運動に影響しないから」の理由ではない。

総合解説：「関節運動に影響しないから」は不適切である。理由は、むしろ機能障害を生じやすい。この論点での適切な判断は「関節面の不整が残ると疼痛・拘縮・変形性変化につながり得るため」である。

JS03-PDF-137

3-5 手指 > 指骨 難易度：1 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：指骨・指尖外傷から末節骨骨折を疑う】「末節骨骨折」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 肘周囲の骨折である。

イ. 指先への直達外力では末節骨骨折を伴うことがある。

ウ. 手関節母指側の骨折である。

エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「上腕骨顆上骨折」に関する内容で、今回の「末節骨骨折」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「末節骨骨折」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「舟状骨骨折」に関する内容で、今回の「末節骨骨折」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「鎖骨骨折」に関する内容で、今回の「末節骨骨折」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「末節骨骨折」が適切である。根拠は、指先への直達外力では末節骨骨折を伴うことがある。

JS03-PDF-138

3-5 手指 > 指骨 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：指骨・開放指骨骨折の合併損傷を理解する】実習生が「腱機能評価は不要である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 指神経損傷を確認する。

イ. 屈筋・伸筋腱損傷を確認する。

ウ. 指は腱・神経・血管が表在性で、創を伴う骨折では複合損傷を評価する必要がある。

エ. むしろ開放骨折を考える。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「感覚評価は不要である」に関する内容で、今回の誤判断「腱機能評価は不要である」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「腱機能評価は不要である」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「開放骨折・感染・腱神経損傷の可能性」に関する内容で、今回の誤判断「腱機能評価は不要である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「創があれば骨折は否定できる」に関する内容で、今回の誤判断「腱機能評価は不要である」の理由ではない。

総合解説：「腱機能評価は不要である」は不適切である。理由は、屈筋・伸筋腱損傷を確認する。この論点での適切な判断は「開放骨折・感染・腱神経損傷の可能性」である。

JS03-PDF-139

3-5 手指 > 指骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：指骨・指骨骨折の固定弊害を理解する】「不必要に長期固定してPIP関節などの拘縮を残すこと」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。
 ア. ではない。重要である。
 イ. ではない。固定後の安全確認である。
 ウ. ではない。適切な固定原則である。
 エ. 手指関節は拘縮しやすく、安定性を確保しつつ適切な時期に運動へ移行する。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「整復位を確認する」に関する内容で、今回の「不必要に長期固定してPIP関節などの拘縮を残すこと」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「末梢循環を確認する」に関する内容で、今回の「不必要に長期固定してPIP関節などの拘縮を残すこと」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「必要な範囲を固定する」に関する内容で、今回の「不必要に長期固定してPIP関節などの拘縮を残すこと」の根拠ではない。

エ：正しい。この説明が「不必要に長期固定してPIP関節などの拘縮を残すこと」を適切とする根拠に直接対応する。

総合解説：この論点では「不必要に長期固定してPIP関節などの拘縮を残すこと」が適切である。根拠は、手指関節は拘縮しやすく、安定性を確保しつつ適切な時期に運動へ移行する。

JS03-PDF-140

3-5 手指 > 指骨 難易度：3 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：指骨・小児指骨骨折の特性を理解する】実習生が「爪だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。
 ア. 成長軟骨損傷は成長障害や変形につながる可能性がある。
 イ. 成長期特有の骨端線が重要である。
 ウ. 爪損傷もあり得るが成長障害の中心ではない。
 エ. 局所が異なる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「骨端線・成長軟骨」に関する内容で、今回の誤判断「爪だけ」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「成人にしかない靱帯だけ」に関する内容で、今回の誤判断「爪だけ」の理由ではない。

ウ：正しい。この説明が「爪だけ」が不適切である理由に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「肩峰だけ」に関する内容で、今回の誤判断「爪だけ」の理由ではない。

総合解説：「爪だけ」は不適切である。理由は、爪損傷もあり得るが成長障害の中心ではない。この論点での適切な判断は「骨端線・成長軟骨」である。

JS03-PDF-141

3-5 手指 > 指骨 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：指骨・回旋変形を機能所見から判断する】「回旋変形」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 局所が異なる。
- イ. 指骨の回旋変形は伸展位で目立たなくても屈曲時に指の交差として現れる。
- ウ. 回旋変形による指交差を直接説明しない。
- エ. 手関節骨折の後遺症である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「肩関節脱臼」に関する内容で、今回の「回旋変形」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「回旋変形」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「正中神経麻痺だけ」に関する内容で、今回の「回旋変形」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「舟状骨偽関節」に関する内容で、今回の「回旋変形」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「回旋変形」が適切である。根拠は、指骨の回旋変形は伸展位で目立たなくても屈曲時に指の交差として現れる。

JS03-PDF-142

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱損傷・屈筋腱の作用を理解する】実習生が「浅指屈筋腱だけ」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 深指屈筋腱は末節骨に停止しDIP関節を屈曲する。
- イ. 主にPIP関節屈曲に関与する。
- ウ. 指伸展に関与する。
- エ. 母指の伸展に関与する。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「深指屈筋腱」に関する内容で、今回の誤判断「浅指屈筋腱だけ」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「浅指屈筋腱だけ」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「総指伸筋腱」に関する内容で、今回の誤判断「浅指屈筋腱だけ」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「長母指伸筋腱」に関する内容で、今回の誤判断「浅指屈筋腱だけ」の理由ではない。

総合解説：「浅指屈筋腱だけ」は不適切である。理由は、主にPIP関節屈曲に関与する。この論点での適切な判断は「深指屈筋腱」である。

JS03-PDF-143

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱損傷・浅指屈筋腱の機能を理解する】「浅指屈筋腱」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

ア. 浅指屈筋腱は中節骨に停止しPIP関節屈曲に重要である。

イ. 母指伸展の腱である。

ウ. 手関節伸展・尺屈に関与する。

エ. 手関節伸展に関与する。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「浅指屈筋腱」を適切とする根拠に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「長母指伸筋腱」に関する内容で、今回の「浅指屈筋腱」の根拠ではない。

ウ：誤り。この説明は「尺側手根伸筋腱」に関する内容で、今回の「浅指屈筋腱」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「短橈側手根伸筋腱」に関する内容で、今回の「浅指屈筋腱」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「浅指屈筋腱」が適切である。根拠は、浅指屈筋腱は中節骨に停止しPIP関節屈曲に重要である。

JS03-PDF-144

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱損傷・切創後の屈筋腱損傷を認識する】実習生が「肘内障」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

ア. 小児肘の橈骨頭亜脱臼である。

イ. 手掌側切創後の能動屈曲不能は屈筋腱断裂を疑う。

ウ. 下肢の腱損傷である。

エ. 肩の腱損傷である。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「肘内障」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「屈筋腱損傷」に関する内容で、今回の誤判断「肘内障」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「アキレス腱断裂」に関する内容で、今回の誤判断「肘内障」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「腱板断裂」に関する内容で、今回の誤判断「肘内障」の理由ではない。

総合解説：「肘内障」は不適切である。理由は、小児肘の橈骨頭亜脱臼である。この論点での適切な判断は「屈筋腱損傷」である。

JS03-PDF-145

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱損傷・手指切創の複合損傷を理解する】「指神経・動脈損傷」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 下肢神経である これは「腓骨神経損傷だけ」に関する説明である。
- イ. 下肢血管である。
- ウ. 屈筋腱と神経・動脈は近接して走行し、切創で同時損傷することがある。
- エ. 下肢神経である これは「坐骨神経損傷だけ」に関する説明である。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「腓骨神経損傷だけ」に関する内容で、今回の「指神経・動脈損傷」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「大腿動脈損傷だけ」に関する内容で、今回の「指神経・動脈損傷」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「指神経・動脈損傷」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「坐骨神経損傷だけ」に関する内容で、今回の「指神経・動脈損傷」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「指神経・動脈損傷」が適切である。根拠は、屈筋腱と神経・動脈は近接して走行し、切創で同時損傷することがある。

JS03-PDF-146

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：1 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱損傷・マレット指の典型像を理解する】実習生が「Bennett骨折」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 母指中手骨基部骨折脱臼である。
- イ. 小児肘の損傷である。
- ウ. 手関節尺側の損傷である。
- エ. 末節骨部の伸筋腱断裂や骨性剥離でDIP伸展不能となる。

答え・4肢解説

正答：ア

ア：正しい。この説明が「Bennett骨折」が不適切である理由に直接対応する。

イ：誤り。この説明は「肘内障」に関する内容で、今回の誤判断「Bennett骨折」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「TFCC損傷」に関する内容で、今回の誤判断「Bennett骨折」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「マレット変形（槌指）」に関する内容で、今回の誤判断「Bennett骨折」の理由ではない。

総合解説：「Bennett骨折」は不適切である。理由は、母指中手骨基部骨折脱臼である。この論点での適切な判断は「マレット変形（槌指）」である。

JS03-PDF-147

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：2 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱損傷・腱性マレット指の固定原則を理解する】「DIP関節伸展位を保つ装具・固定」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 治癒過程を阻害し得る。
- イ. 腱修復を妨げる可能性がある。
- ウ. 腱性マレット指では伸展位保持による保存療法が一般的である。
- エ. 伸筋腱端が離れ治癒を妨げる。

答え・4肢解説

正答：ウ

ア：誤り。この説明は「固定中に毎日DIPを屈曲して確認する」に関する内容で、今回の「DIP関節伸展位を保つ装具・固定」の根拠ではない。

イ：誤り。この説明は「受傷直後から強い握力訓練を行う」に関する内容で、今回の「DIP関節伸展位を保つ装具・固定」の根拠ではない。

ウ：正しい。この説明が「DIP関節伸展位を保つ装具・固定」を適切とする根拠に直接対応する。

エ：誤り。この説明は「DIP関節を常に最大屈曲位にする」に関する内容で、今回の「DIP関節伸展位を保つ装具・固定」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「DIP関節伸展位を保つ装具・固定」が適切である。根拠は、腱性マレット指では伸展位保持による保存療法が一般的である。

JS03-PDF-148

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱損傷・骨性マレット指を理解する】実習生が「DIP関節とは無関係である」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 骨性マレットは伸筋腱付着部の骨折を伴い、骨片が大きい場合などは手術適応となる。
- イ. DIP関節伸展機構の損傷である。
- ウ. それは腱性マレット指である。
- エ. 適切な治療が必要である。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「末節骨基部の剥離骨折を伴い、骨片や関節亜脱臼の程度で手術が必要なことがある」に関する内容で、今回の誤判断「DIP関節とは無関係である」の理由ではない。

イ：正しい。この説明が「DIP関節とは無関係である」が不適切である理由に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「骨折を伴わないものだけをいう」に関する内容で、今回の誤判断「DIP関節とは無関係である」の理由ではない。

エ：誤り。この説明は「必ず自然治癒し固定不要である」に関する内容で、今回の誤判断「DIP関節とは無関係である」の理由ではない。

総合解説：「DIP関節とは無関係である」は不適切である。理由は、DIP関節伸展機構の損傷である。この論点での適切な判断は「末節骨基部の剥離骨折を伴い、骨片や関節亜脱臼の程度で手術が必要なことがある」である。

JS03-PDF-149

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：3 形式：PDF正答根拠

【確認テーマ：腱損傷・屈筋腱修復後の後療法原則を理解する】「修復腱を保護しつつ、癒着を減らすため専門的な管理下で段階的運動を行う」を適切な判断とする根拠として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 負荷調整が必要である。
- イ. 腱は再断裂と癒着の両方を避ける必要があり、管理された後療法が重要である。
- ウ. 癒着・拘縮を助長する。
- エ. 再断裂の危険がある。

答え・4肢解説

正答：イ

ア：誤り。この説明は「疼痛や腫脹を無視して運動量を増やす」に関する内容で、今回の「修復腱を保護しつつ、癒着を減らすため専門的な管理下で段階的運動を行う」の根拠ではない。

イ：正しい。この説明が「修復腱を保護しつつ、癒着を減らすため専門的な管理下で段階的運動を行う」を適切とする根拠に直接対応する。

ウ：誤り。この説明は「数か月すべての指を完全不動にする」に関する内容で、今回の「修復腱を保護しつつ、癒着を減らすため専門的な管理下で段階的運動を行う」の根拠ではない。

エ：誤り。この説明は「手術直後から無制限に最大抵抗屈曲を行う」に関する内容で、今回の「修復腱を保護しつつ、癒着を減らすため専門的な管理下で段階的運動を行う」の根拠ではない。

総合解説：この論点では「修復腱を保護しつつ、癒着を減らすため専門的な管理下で段階的運動を行う」が適切である。根拠は、腱は再断裂と癒着の両方を避ける必要があり、管理された後療法が重要である。

JS03-PDF-150

3-5 手指 > 腱損傷 難易度：2 形式：PDF誤答分析

【確認テーマ：腱損傷・伸筋腱損傷を臨床的に評価する】実習生が「屈筋腱だけを評価する」と判断した。この判断が不適切である理由として、最も適切な説明はどれか。

- ア. 複合損傷を見逃す。
- イ. 腱機能評価が必要である。
- ウ. 手背切創では伸筋腱が表在性で損傷されやすく、神経血管評価も必要である。
- エ. 手背切創では伸筋腱損傷が重要である。

答え・4肢解説

正答：エ

ア：誤り。この説明は「感覚・循環評価を省略する」に関する内容で、今回の誤判断「屈筋腱だけを評価する」の理由ではない。

イ：誤り。この説明は「自動運動を一切確認せず外観だけで決める」に関する内容で、今回の誤判断「屈筋腱だけを評価する」の理由ではない。

ウ：誤り。この説明は「伸筋腱損傷を疑い、各関節の能動伸展と感覚・循環を確認する」に関する内容で、今回の誤判断「屈筋腱だけを評価する」の理由ではない。

エ：正しい。この説明が「屈筋腱だけを評価する」が不適切である理由に直接対応する。

総合解説：「屈筋腱だけを評価する」は不適切である。理由は、手背切創では伸筋腱損傷が重要である。この論点での適切な判断は「伸筋腱損傷を疑い、各関節の能動伸展と感覚・循環を確認する」である。